

固定系超高速ブロードバンドに関する 事業者間連携サービスの動向

平成27年6月19日

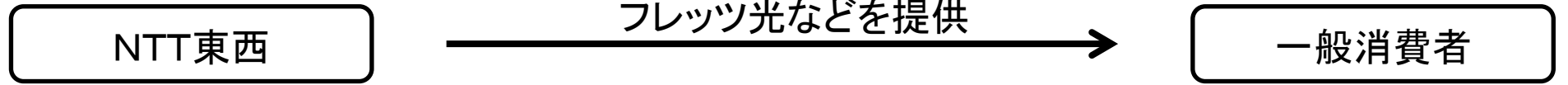
総務省 総合通信基盤局
電気通信事業部 事業政策課

- 1 NTT東西による光回線の卸売サービス関係 . . . P.2
 - ① 概況 . . . P.2
 - ② 利用者アンケート結果 . . . P.8
 - ③ 事業者アンケート結果 . . . P.26
- 2 ISPによる接続を利用したF T T Hサービス関係 . . . P.31

1 NTT東西による光回線の卸売サービス関係

① 概況

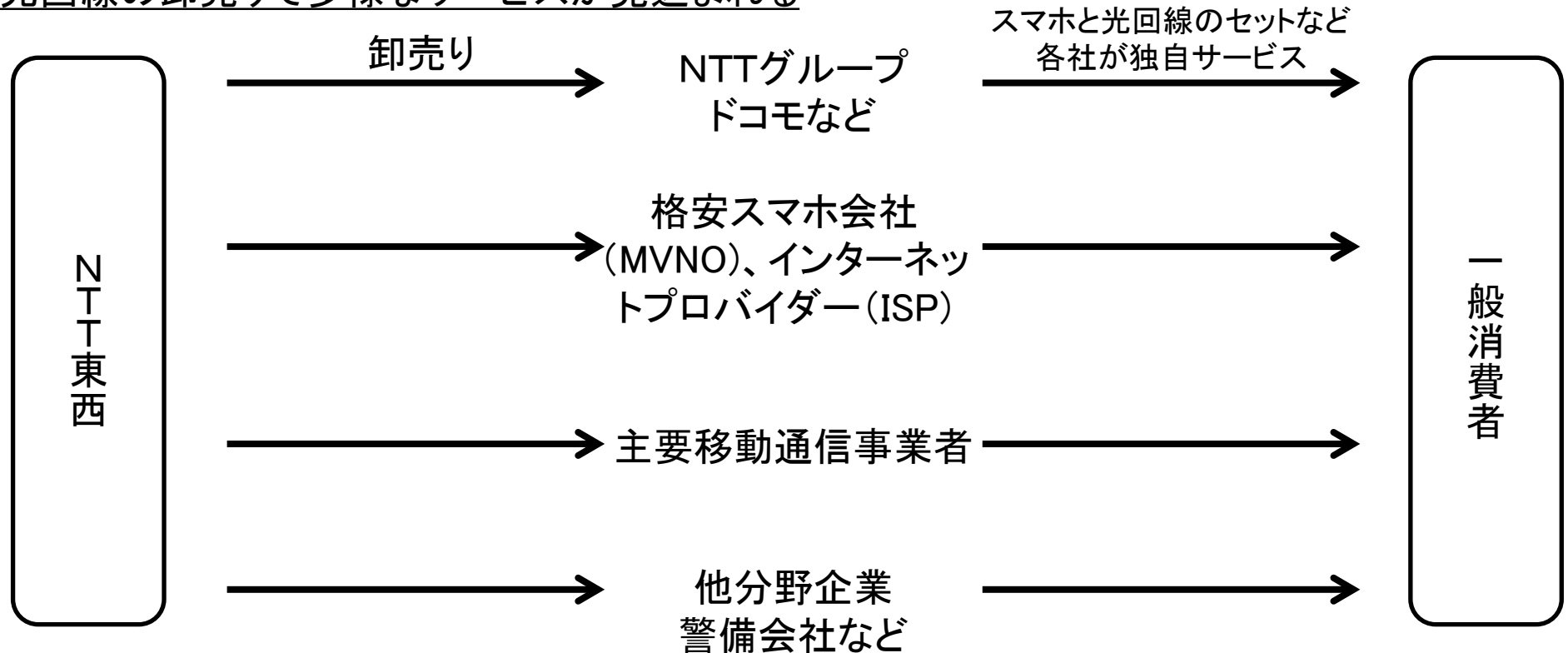
現在 (NTT東西による直接販売)



【参考】1,861万契約(シェア:70.6%)
※2014年12月末時点

卸売り形態になると

→光回線の卸売りで多様なサービスが見込まれる



サービス卸を利用している事業者数

※2015年6月1日現在

全109者 (NTT東西公式HP上の情報に基づく)

卸先事業者の分類 (主な業種による分類)

●MNO	:	2者
●ISP・MVNO等の通信事業者 (法人向け含む)	:	44者
●CATV事業者	:	22者
●SI・ベンダー・機器販売等の関連事業者	:	36者
●異業種 (通信事業以外を主とする者)	:	5者

卸先事業者にて提供するサービスの分類 (重複あり)

●個人向けFTTHアクセスサービス	:	52者
・うち、モバイルサービスとのセット割提供	:	11者
●法人向け (IP-VPNサービスの提供等)	:	12者
●サービス未提供・内容不明等	:	48者

サービス卸を利用した主要事業者・提供サービス内容一覧

※2015年6月1日現在

5

	事業者名	サービス名	サービス開始時期	FTTH料金※	セット対象	概要
ISP/ MVNO	NTTコミュニケーションズ	OCN 光	2月5日	5,100円	・ISP ・MVNO	・MVNOとのセットでMVNO料金200円引き
	NTTぷらら	ぷらら光	2月23日	4,800円	・ISP ・MVNO	・MVNOとのセットでMVNO料金200円引き
	ビッグロブ	ビッグロブ光	2月1日	5,180円	・ISP ・MVNO	・MVNOとのセットでMVNO料金200円引き
	ニフティ	@nifty光	3月1日	5,200円	・ISP ・MVNO	・MVNOとのセットでMVNO料金200円引き ・auスマホ等とのセットでFTTH料金から最大1,200円引き
	So-net	So-net光 コラボレーション	2月9日	5,200円	・ISP ・MVNO	・MVNOとのセットでMVNO料金200円引き ・auスマホ等とのセットでFTTH料金から最大1,200円引き
	インターネット イニシアティブ (IIJ)	IIJmioひかり	3月2日	4,960円	・ISP ・MVNO	・MVNOとのセットでFTTH料金から600円引き
MNO	NTTドコモ	ドコモ光	3月1日	5,200円※	・モバイル	※ISP料金一体型(タイプA)の場合 ・モバイルとのセットで合計料金から最大3,200円引き
	ソフトバンクモバイル	Softbank光	3月1日	5,200円	・モバイル	・モバイルとのセットでモバイル料金から最大2,000円(税込)引き
CATV	TOKAI ケーブルネットワーク	ひかりdeネット N	3月1日	5,100円※	・ISP	※同グループのISP「TNC」を選択した場合
(参考)	NTT東日本	フレッツ 光ネクスト ギガファ ミリー・スマートタイプ	—	5,200円※	—	※プロバイダ料金最安(500円)の場合
異業種	T-MEDIAホールディングス	TSUTAYA光	3月12日	4,500円※	・動画配信 サービス	※ISP料金は別途 ・映画が月20本まで無料で視聴可能
	総合警備保障 (ALSOK)	未定	2015年中	未定	・警備サー ビス	

注: 特に記載が無い限り、戸建て向け・ISP一体・長期契約割引適用後の金額(税抜)。
モバイルとのセット販売時の割引額、各種キャンペーン割引等は含まない。

提供料金の平均
(事業者アンケート結果)

戸建住宅向け: 5,050円 集合住宅向け: 3,870円

注: ISP料金一体型のみ集計。長期契約割引適用後の金額(税抜)。
集合住宅向けは最も安いプランで算出。1円単位は切り捨て。

出所: 公表資料を基に総務省作成
競争評価2014事業者アンケート

- サービス卸の**契約数は27万回線**(NTT東:19万(うち転用が18万)、NTT西:8万(うち転用が7万))。
- サービス卸を利用した**サービス提供事業者数は、NTT東:81社、NTT西:78社**(東西で重複あり。2015年5月11日現在)。
- サービス卸の**申込み数は、NTT東:新規8万・転用66万、NTT西:新規4万・転用23万**(2015年5月11日現在)。

NTT東西のフレッツ光契約数 (公表資料から作成)

(単位:千回線)

		14.3末	15.3末	14年度純増	16.3見込	15年度純増見込
フレッツ光全体		18,050	18,716	665	19,316	600
	NTT東日本	10,187	10,403	215	10,803	400
	NTT西日本	7,863	8,313	450	8,513	200
	(内数)光コラボ	-	<u>270</u>	-	-	-
	NTT東日本	-	<u>190</u>	-	-	-
	NTT西日本	-	<u>80</u>	-	-	-

平成27年度に向けた光コラボレーション推進の取組 (NTT東日本 平成26年度決算資料から抜粋)

- ✓ 光コラボレーションモデルへ新規参入事業者の積極開拓・支援による新規需要創出とリテンション強化
- ✓ 光コラボ関連オペレーションの早期安定運用と効率化促進 等

概要

サービス開始日

2015年3月1日

月額料金

(税抜・2年定期契約有)

	単独型 (ISPは別料金)	ISP料金一体型	
		タイプA	タイプB
戸建て	5,000円	5,200円	5,400円
集合住宅	3,800円	4,000円	4,200円

対応ISP

※2015年6月1日現在

※提携ISPにより提供開始時期が異なる

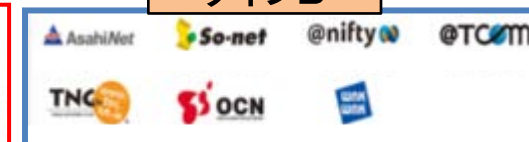
【単独型】全ての「フレッツ光」対応ISPが選択可能

【ISP料金一体型】以下の提携ISPから選択可能

タイプA



タイプB



割引施策

モバイルとのセット割引 (ドコモ光パック)

契約するドコモ携帯電話のデータ定額プランにより、ドコモ光の料金との合計から、最大3,200円の割引。

その他割引施策

【光スマホ割】 (対象:新規契約・MNP契約者)

→ カケホーダイプラン半額(1,350円割引) 等

【期間限定割引】

(対象:旧プラン、光データSパック等、特定プランの契約者)

→ ドコモ光料金を500円割引

2015年3月決算期における公表情報

- ドコモ光の申込み数は約23万(2015年3月末時点)。うち約3割がモバイルを新規契約。
- 2015年度通期予想は、契約数180万。

1 NTT東西による光回線の卸売サービス関係

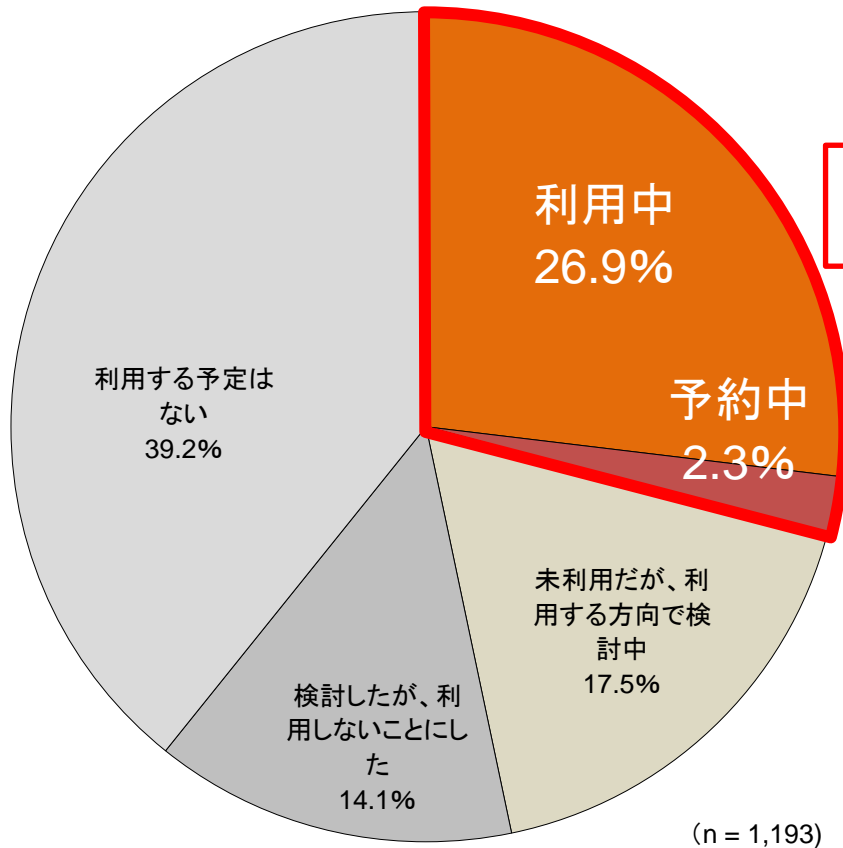
② 利用者アンケート結果

- **競争評価2014**では、電気通信サービスに関するこれまでの利用者アンケートに加え、**ドコモ光などのサービス卸を利用したFTTHアクセスサービス**（以下「卸利用FTTHサービス」という。）に関して、**サービス認知者を対象に追加アンケートを実施**（2015年3月30日から実施）。

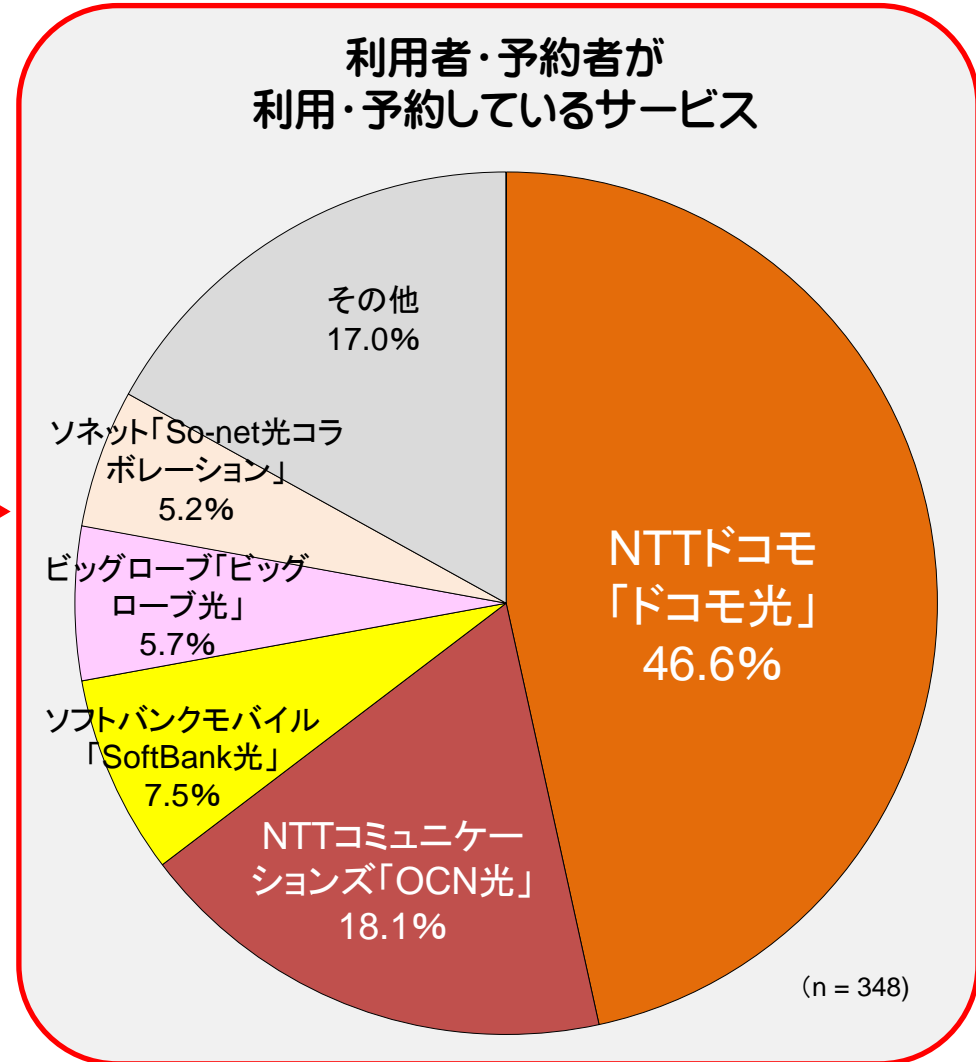
項目	内容
調査方法	Webによるアンケート調査
対象	予備調査：70,000名（うち、サービス認知者：20,789名 サービス利用者：738名）、 有効回答：1,193名（サービス認知者）
主な設問項目	利用（または予約）しているサービス、固定インターネット回線事業者の変更の有無、ISP事業者の変更の有無、現在利用している移動系通信、移動系通信の変更の有無、サービス卸の利用（または予約）の決め手となった理由 等
スケジュール	2015年 3月30日から実施
備考	同年6月5日からサービス認知者に対して、卸利用FTTHサービスの利用前後における移動系通信サービスの事業者等に関する追加アンケートを実施

- アンケート結果では、卸利用FTTHサービス認知者中、サービスの実際の利用者・予約者の割合は約29%。
- NTTドコモの「ドコモ光」の利用者・予約者は全体の約47%と最多。

サービス認知者における
利用・予約の状況

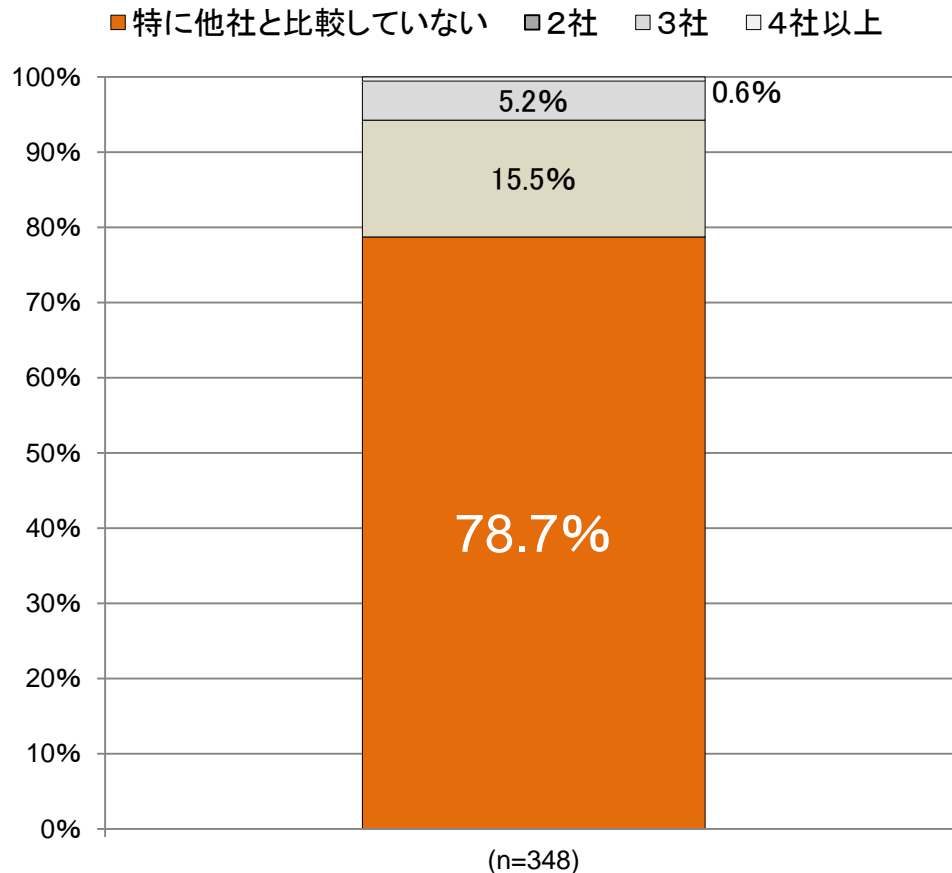


利用者・予約者が
利用・予約しているサービス

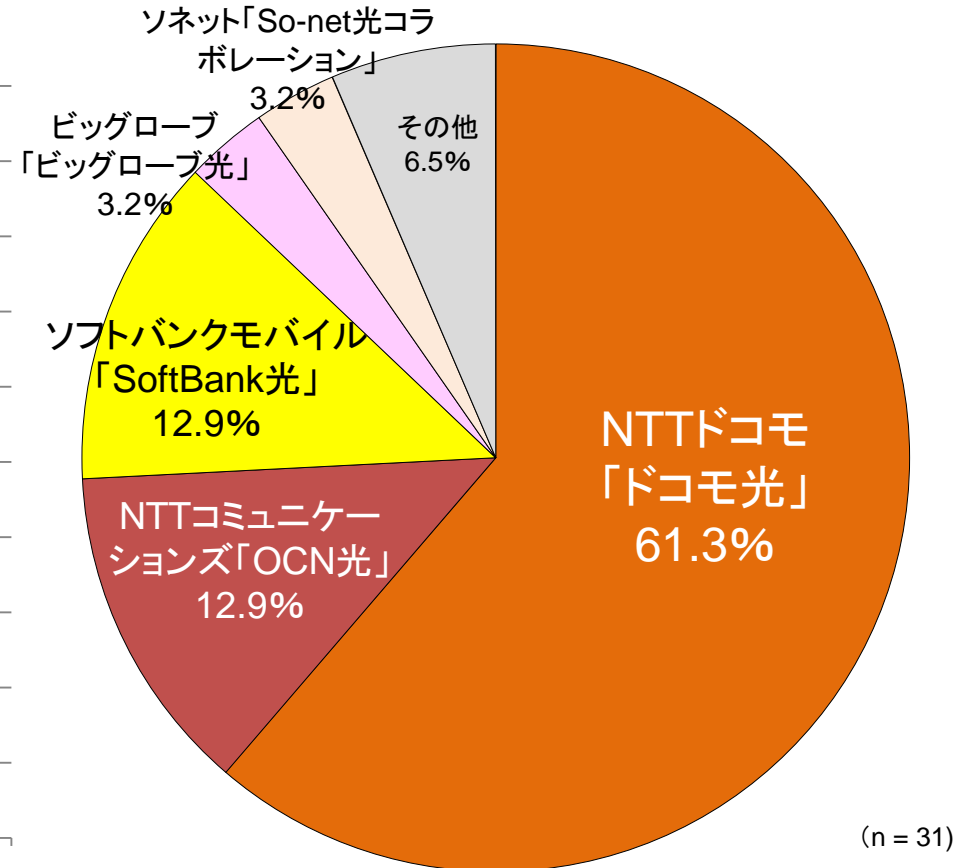


- 卸利用FTTHサービスの利用者・予約者のうち、利用・予約する際に**他社のサービスと比較していない者は約79%と最多。**
- **auスマートバリューと比較した者が利用・予約しているサービスは、ドコモ光が約61%と最多。**

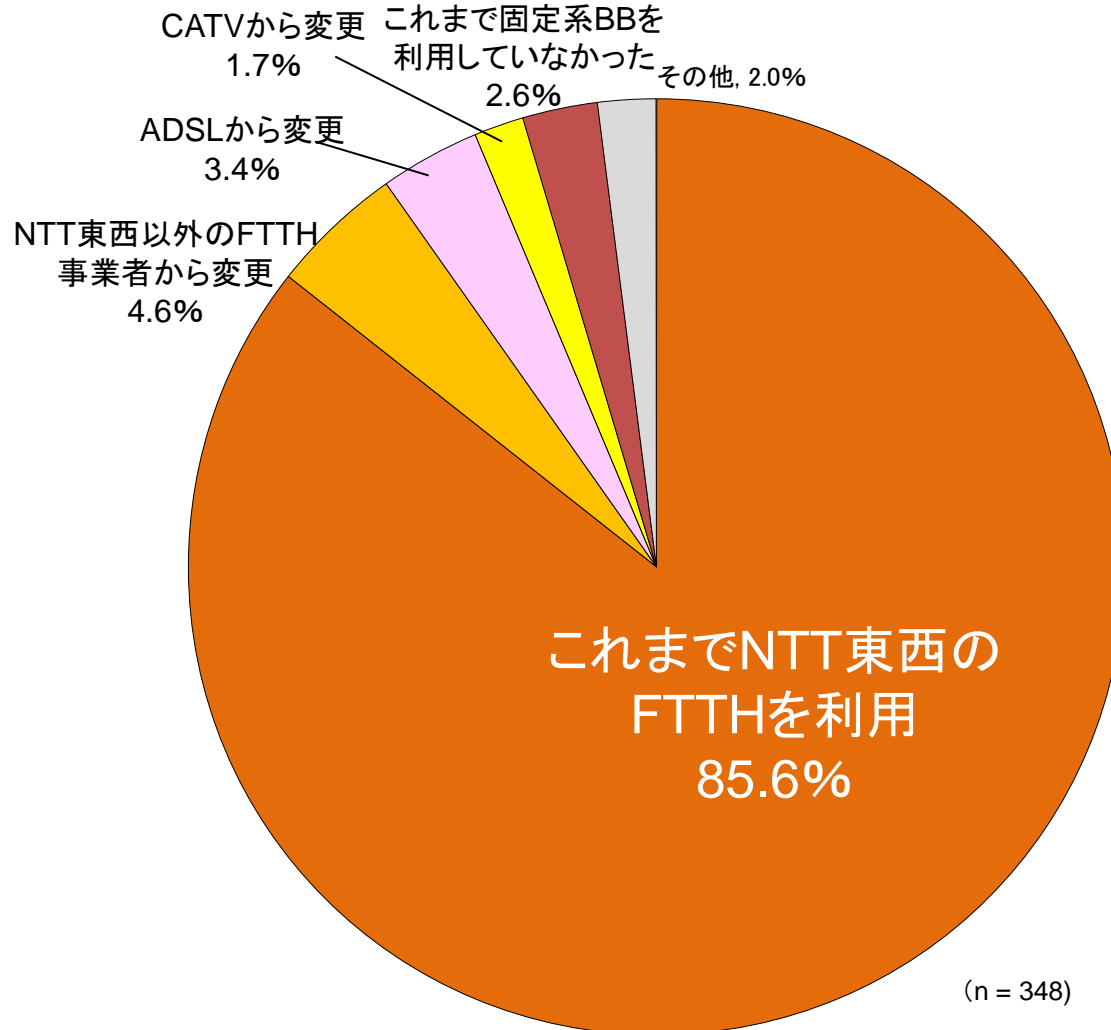
サービス比較事業者数
(サービスの利用者・予約者)



auスマートバリューと比較した者が
利用・予約しているサービス



- 卸利用FTTHサービスの利用者・予約者のうち、**これまでNTT東西のFTTHを利用していた者が85.6%と最多。**
- そのほか、**NTT東西以外のFTTH事業者から変更が4.6%、ADSLから変更が3.4%、CATVから変更が1.7%、これまで固定系BBの利用なしが2.6%。**

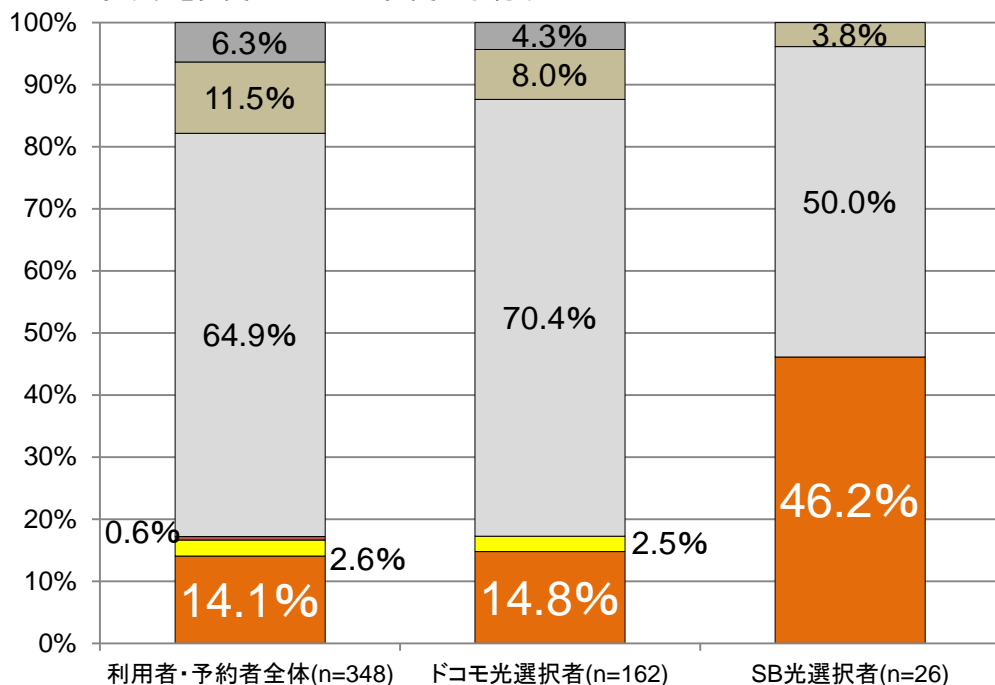


移動体通信事業者の変更割合

- 卸利用FTTHサービスの利用者・予約者のうち、利用・予約に伴い**移動体通信事業者の変更を行った者は全体の約14%**。
- 変更を行った者の**変更前と後の移動体通信事業者**を見ると、NTTドコモは**30.6%から46.9%**、au(KDDI)は**26.5%から6.1%**、ソフトバンクモバイルは**18.4%から28.6%**に変動。

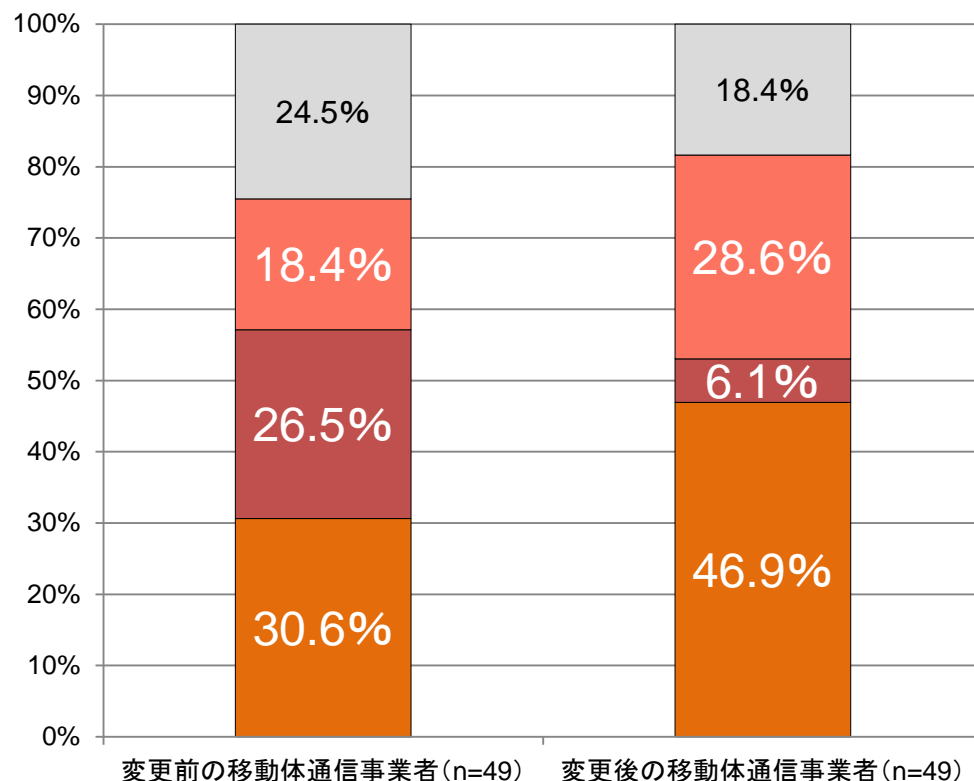
移動体通信事業者の変更割合

- 分からない
- 移動体通信サービスを利用していない
- 事業者を変更していない(または変更の予約をしていない)
- 今まで移動体通信サービスを利用していなかったが、新たに回線を契約した
- 今まで利用していた回線とは別に、新たに回線を契約した
- 事業者を変更した(または変更の予約中)

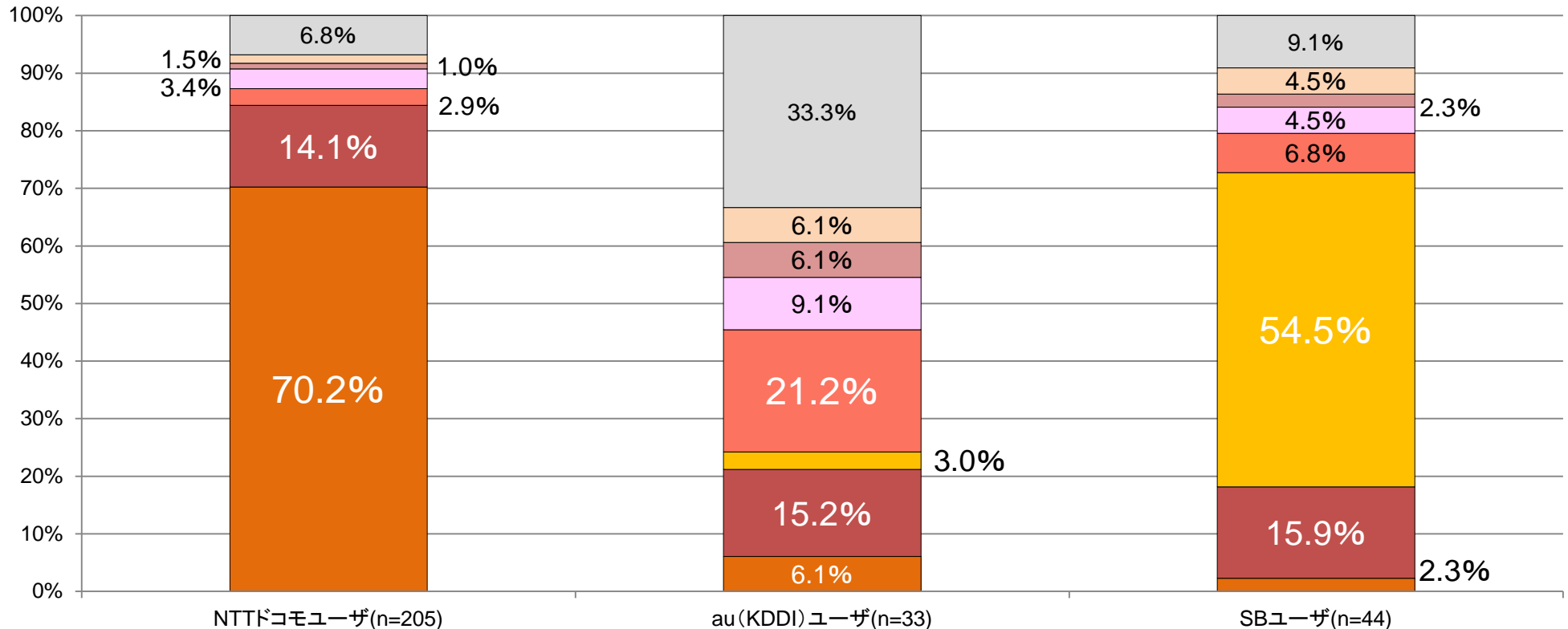
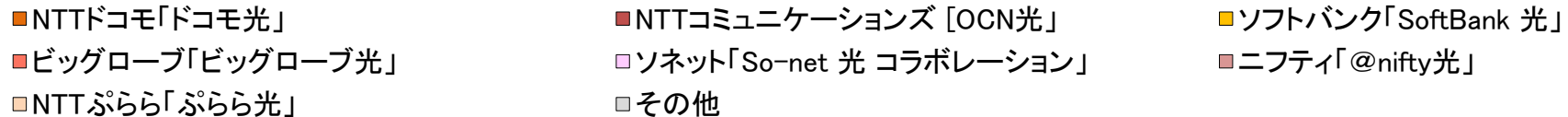


変更を行った者の変更前後の移動体通信事業者

- NTTドコモ
- au(KDDI)
- ソフトバンクモバイル
- その他



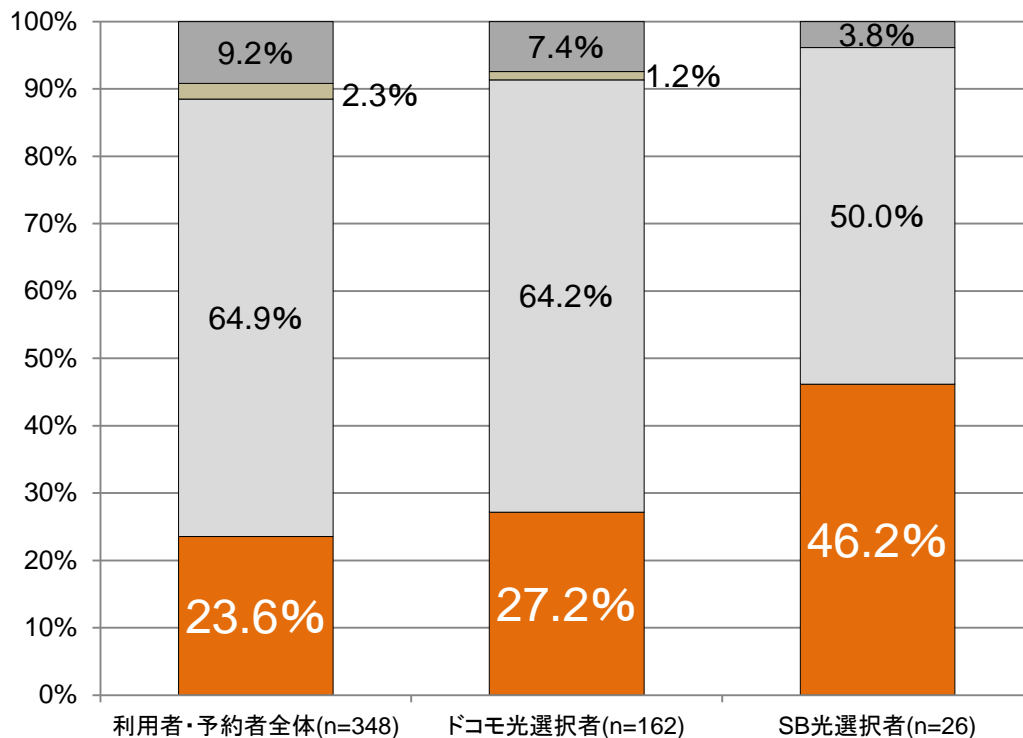
- 卸利用FTTHサービスの利用者・予約者のうち、**移動体通信サービス別**で見た場合、**NTTドコモユーザは、ドコモ光**を利用・予約している割合が**約70%と最多**であり、次いで**OCN光**が**約14%**。
- **au(KDDI)ユーザは、ビッグロブ光**が**約21%と最多**であり、次いで**OCN光**が**約15%**。
- **ソフトバンクモバイルユーザは、SoftBank光**が**約55%と最多**であり、次いで**OCN光**が**約16%**。



- 卸利用FTTHサービスの利用者・予約者のうち、利用・予約に伴い**ISP事業者の変更を行った者は全体の約24%**。
- 変更を行った者の**変更前と後のISP事業者**を見ると、ドコモnetは**23.2%**、Yahoo!BB(ヤフー/ソフトバンクBB)は**15.9%**から**14.6%**、OCN(NTTコミュニケーションズ)は**15.9%**から**14.6%**、ぷらら(NTTぷらら)は**4.9%**から**13.4%**に変動。

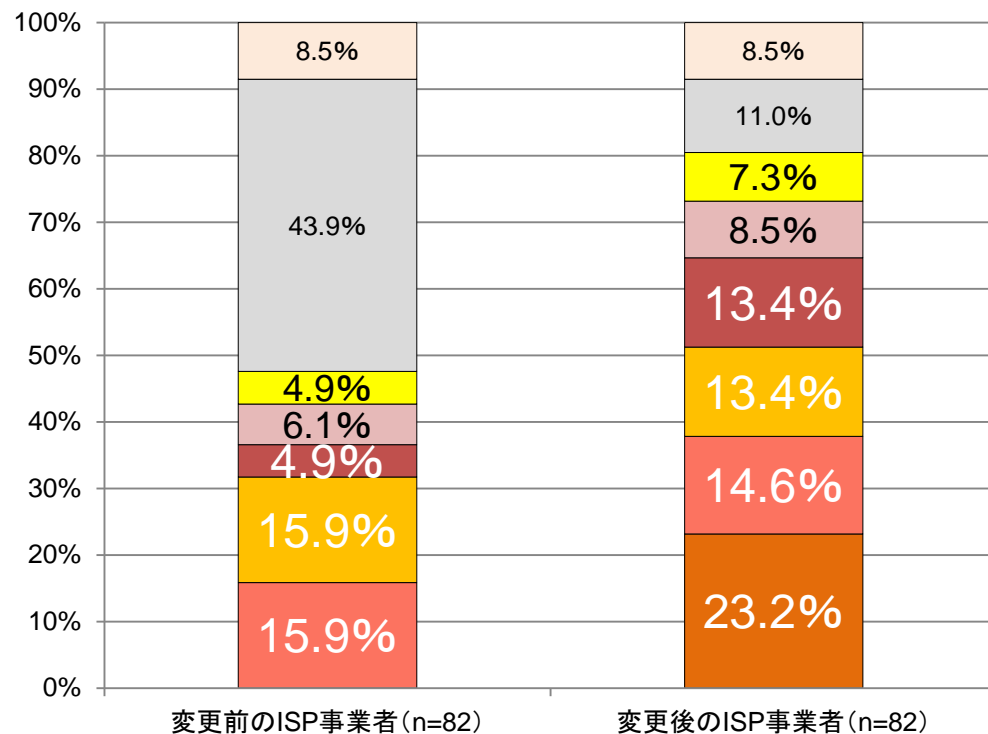
ISP事業者の変更割合

- 分からない
- 初めてISPを契約した
- ISPを変更していない
- ISPを変更した(または変更の予約中)

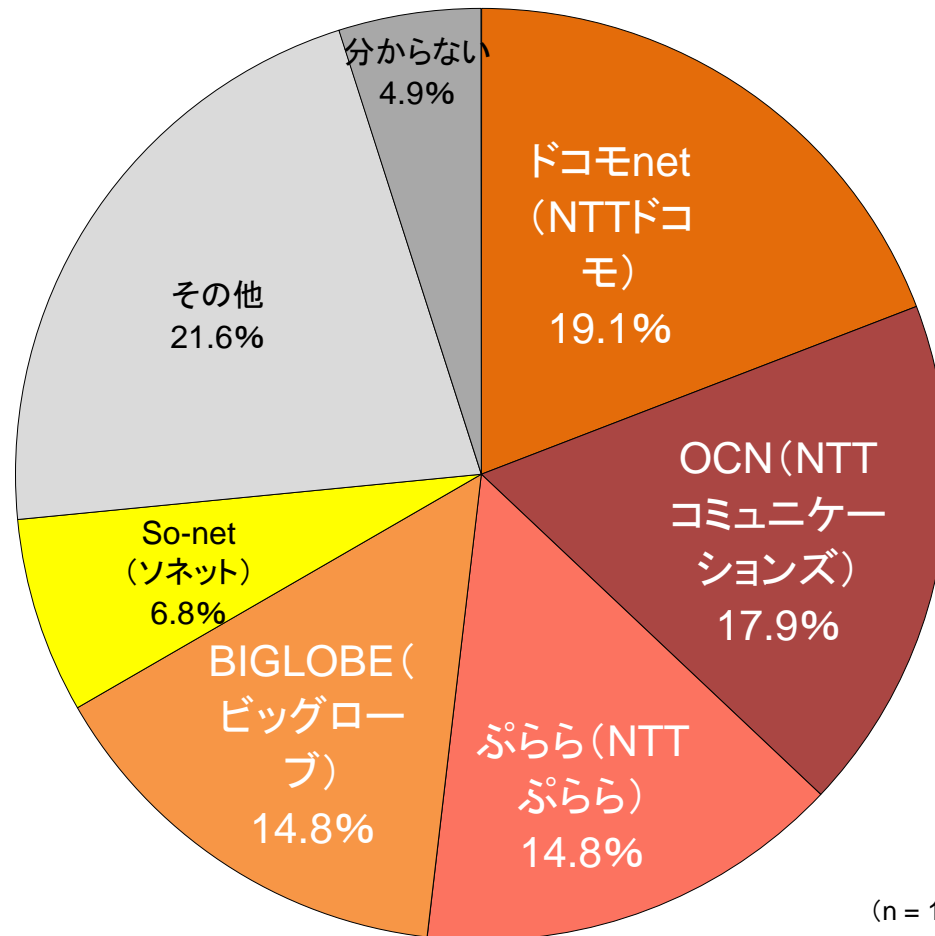


変更を行った者の変更前後のISP事業者

- 分からない
- So-net(ソネット)
- ぷらら(NTTぷらら)
- Yahoo!BB(ヤフー/ソフトバンクBB)
- その他
- BIGLOBE(ビッグロブ)
- OCN(NTTコミュニケーションズ)
- ドコモnet(NTTドコモ)



- ドコモ光では、さまざまなISPが選択可能となっている。
- ドコモ光選択者に選択したISP事業者を聞いたところ、ドコモnet(NTTドコモ)が19.1%、OCN(NTTコミュニケーションズ)が17.9%、ぷらら(NTTぷらら)及びBIGLOBE(ビッグローブ)が14.8%であった。



- 卸利用FTTHサービスの利用者・予約者がサービスを知ったきっかけとしては、**事業者からの電話勧誘等が43.4%と最多。**
- そのうち、**ドコモ光選択者は店頭でのお知らせが多く、SoftBank光選択者は事業者からの電話勧誘等や店頭でのお知らせが多い。**

サービスを知ったきっかけ (サービスの利用者・予約者)

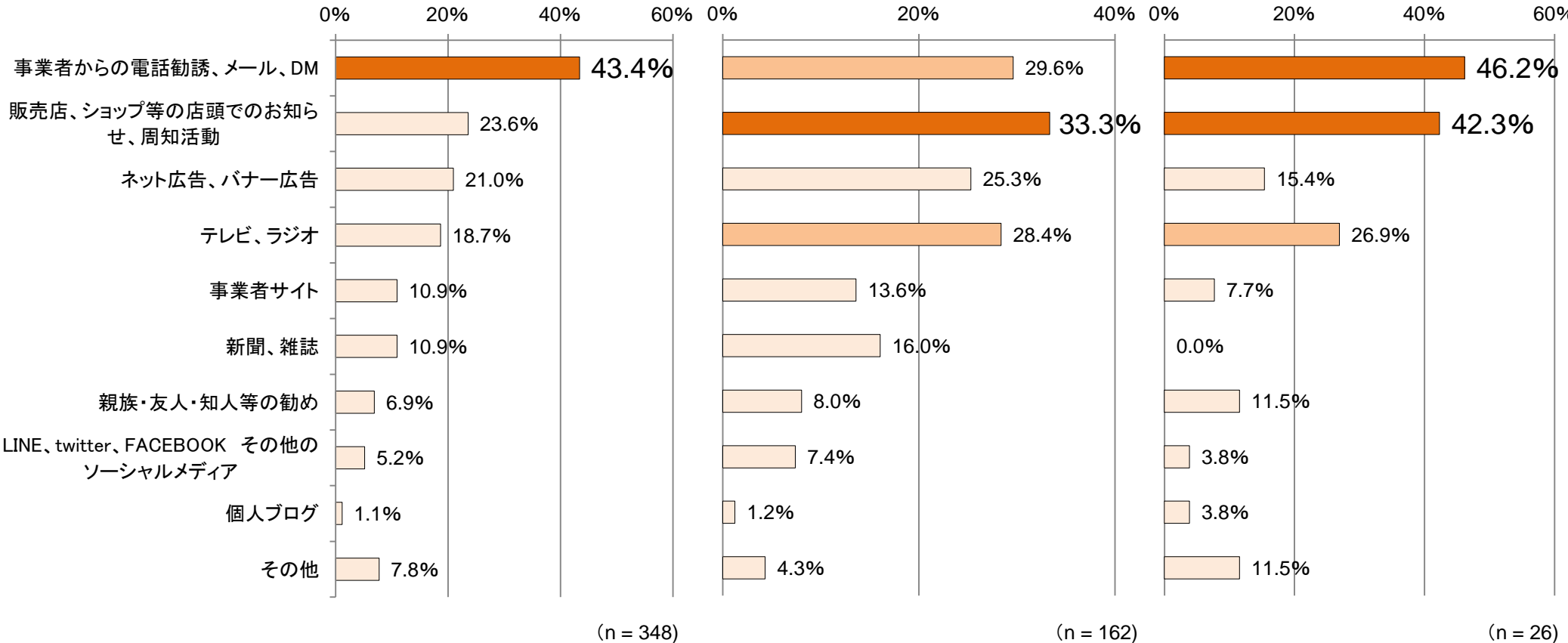
※複数回答可

サービスを知ったきっかけ (ドコモ光選択者)

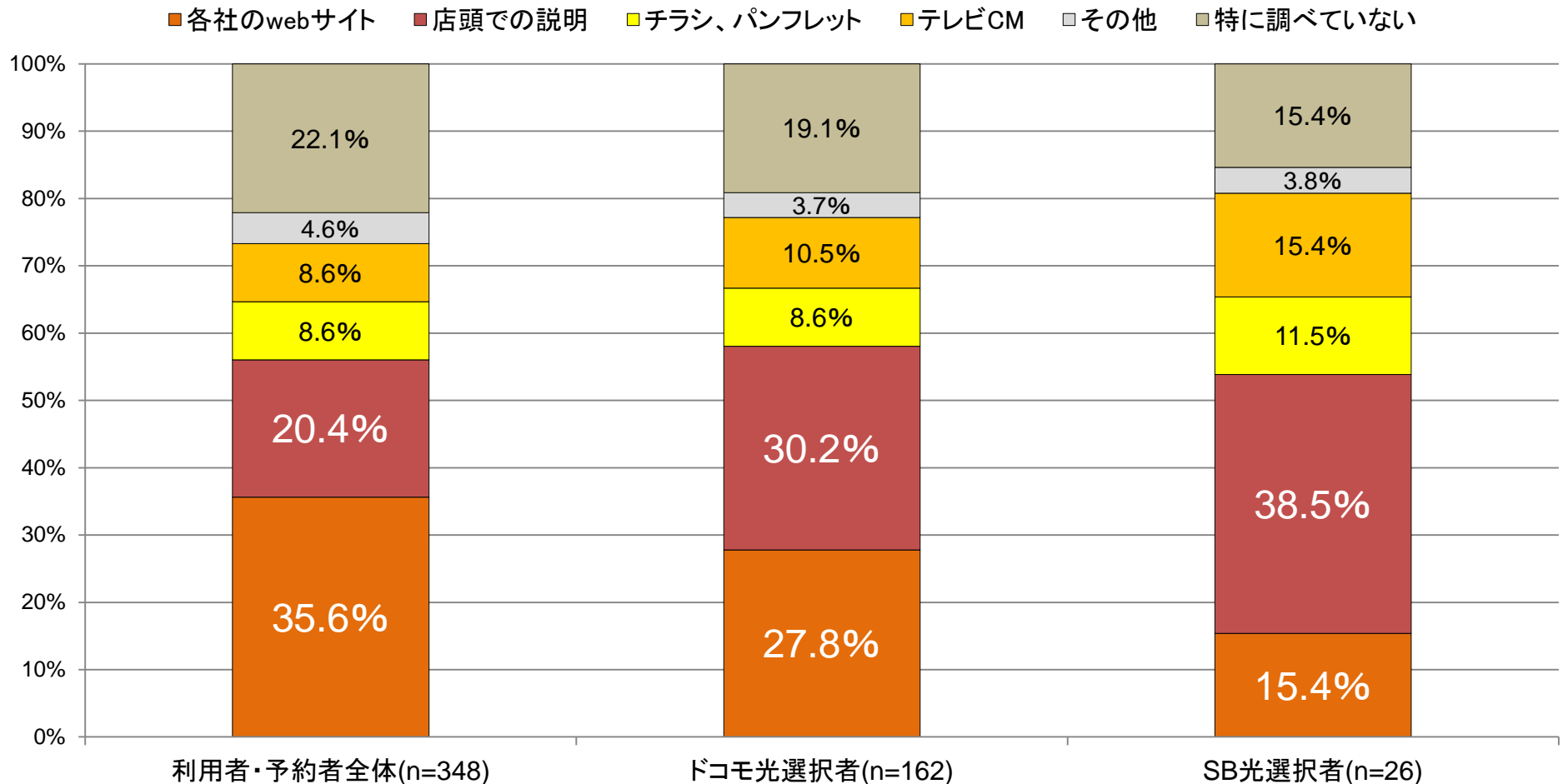
※複数回答可

サービスを知ったきっかけ (SoftBank光選択者)

※複数回答可

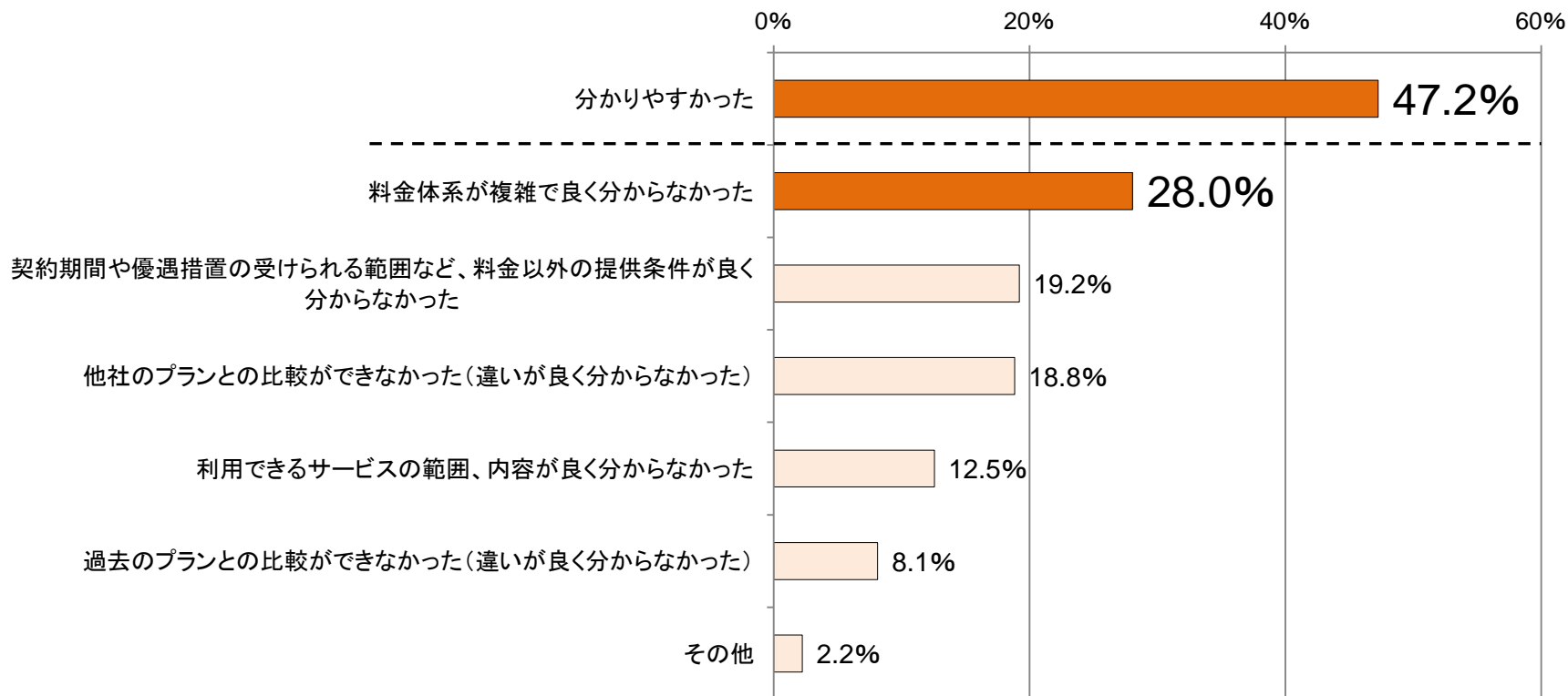


- 卸利用FTTHサービスに関する情報の入手方法として、各社のwebサイトが35.6%、店頭での説明が20.4%であった。
- そのうち、ドコモ光選択者は店頭での説明が30.2%、各社のwebサイトが27.8%である一方、SoftBank光選択者は店頭での説明が38.5%と多い。



- 卸利用FTTHサービスに関する情報を入手した際、**分かりやすかった**と回答した者は**47.2%**と**最多**であった。
- 他方、**分かりにくかった**と回答した者のうち、**料金体系が複雑で良く分からなかった**と回答した者が**28.0%**と**最多**であった。

※複数回答可



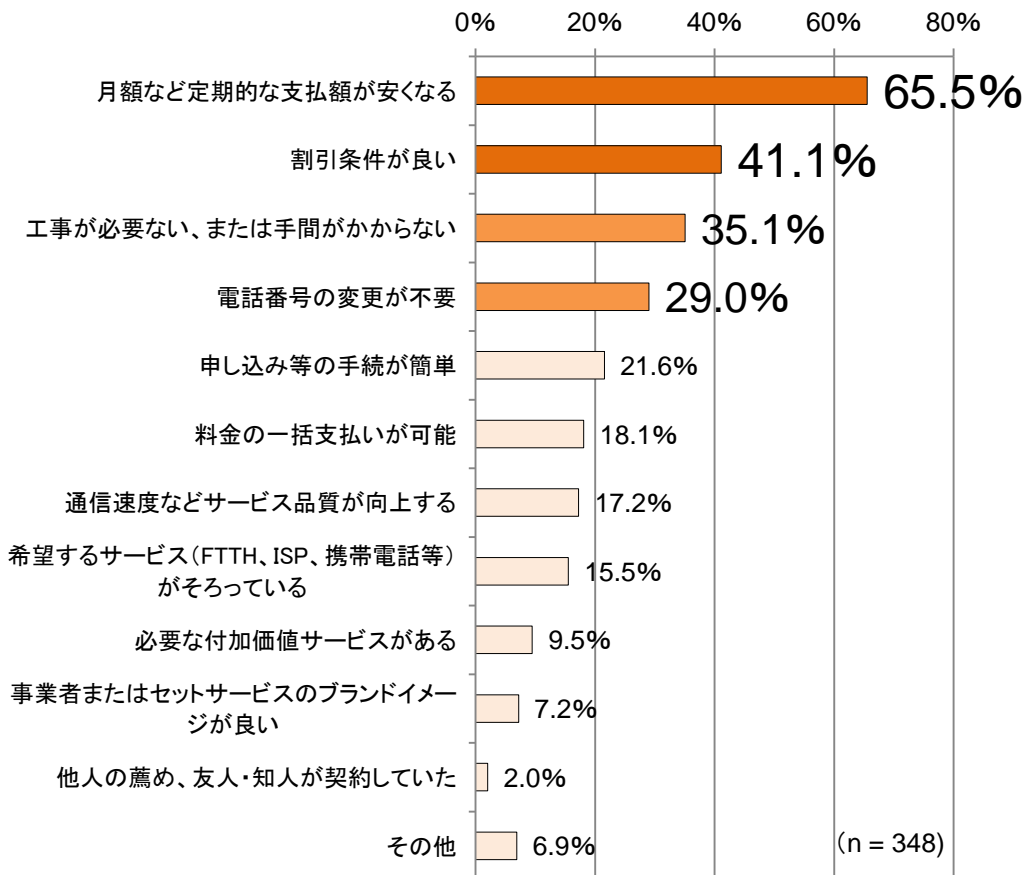
(n = 271)

- 卸利用FTTHサービスの利用者・予約者に対して、**契約の決め手とした理由**を聞いたところ、支払額が安くなることや割引条件の良さなどの**料金関係が最多**。次点として、**手続関係**が挙げられている。
- 卸利用FTTHサービスの利用者・予約者のうち、**auスマートバリューと比較した者**においても、**料金関係が最多**※。他方、FTTH・ISP・携帯電話等の**希望するサービスがそろっていることを決め手とした者も多い**。

※ あくまでもアンケート調査に対する回答を集計したものであり、料金や割引条件等の違いを客観的に示すものではないことに留意が必要。

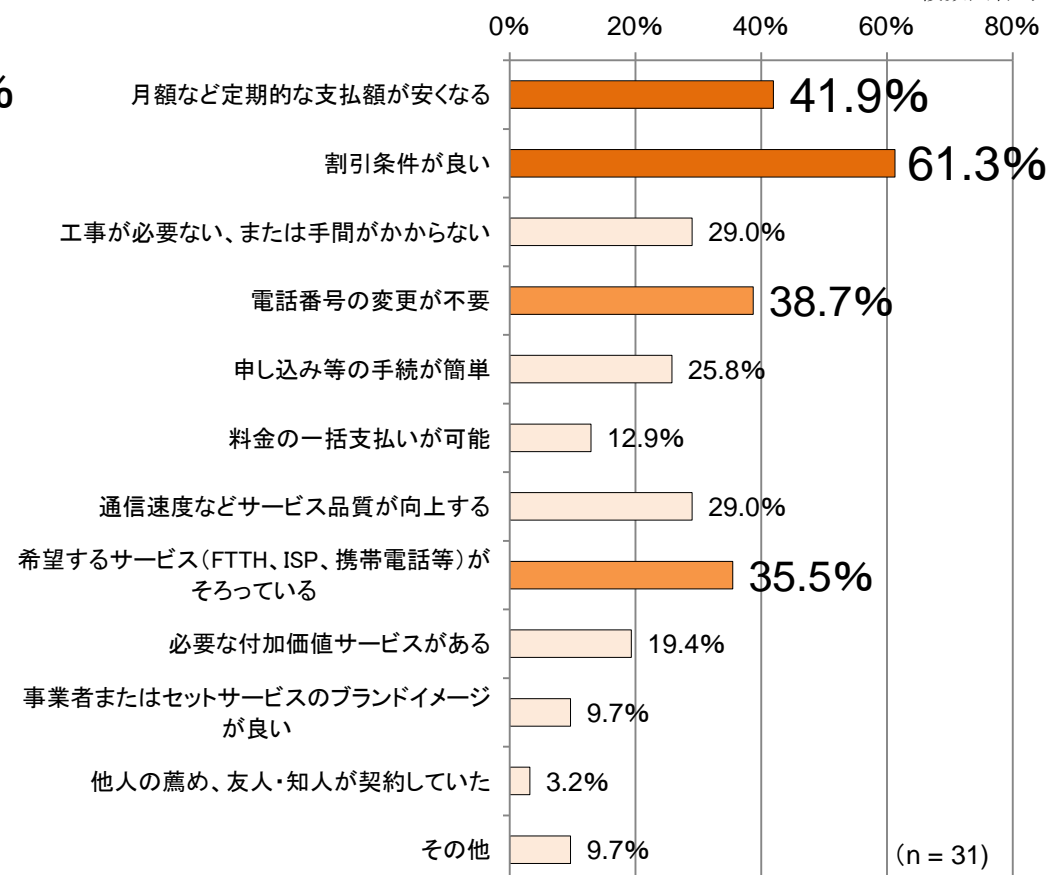
サービスの契約の決め手 (サービスの利用者・予約者)

※複数回答可



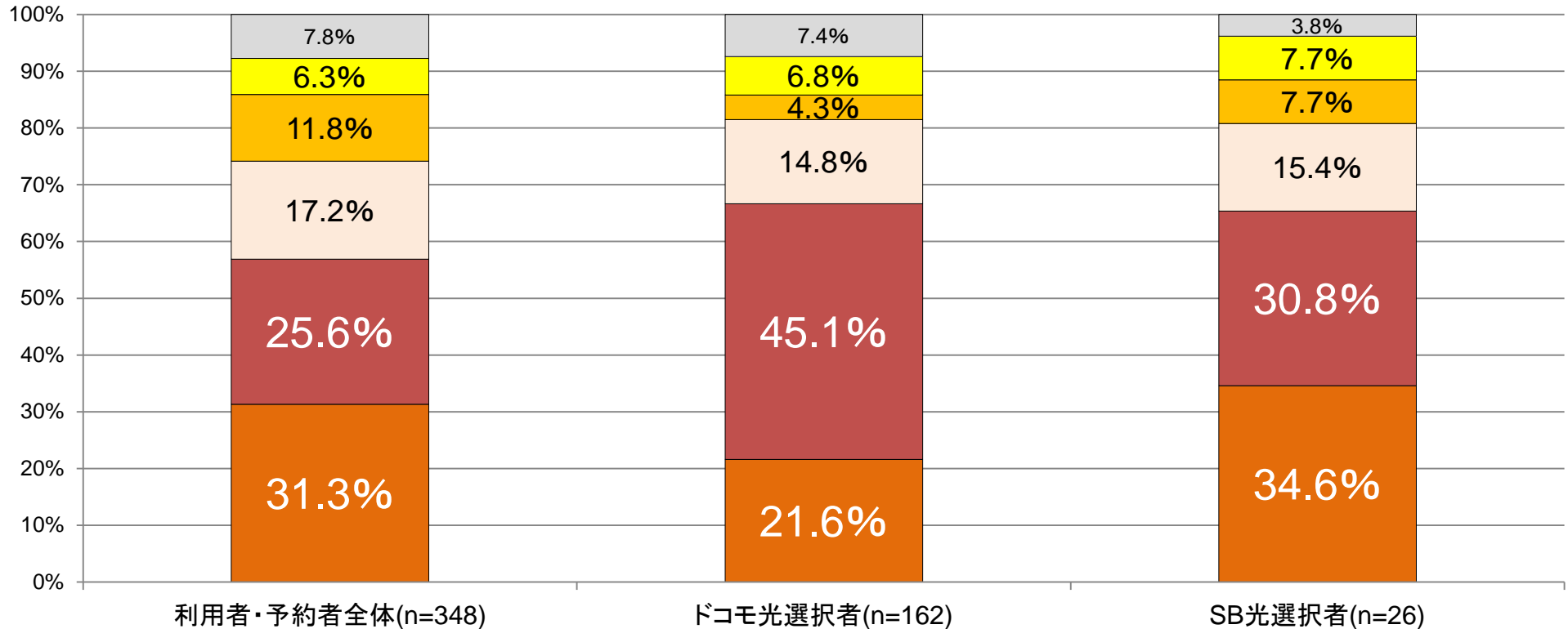
サービスの契約の決め手 (auスマートバリューと比較した者)

※複数回答可

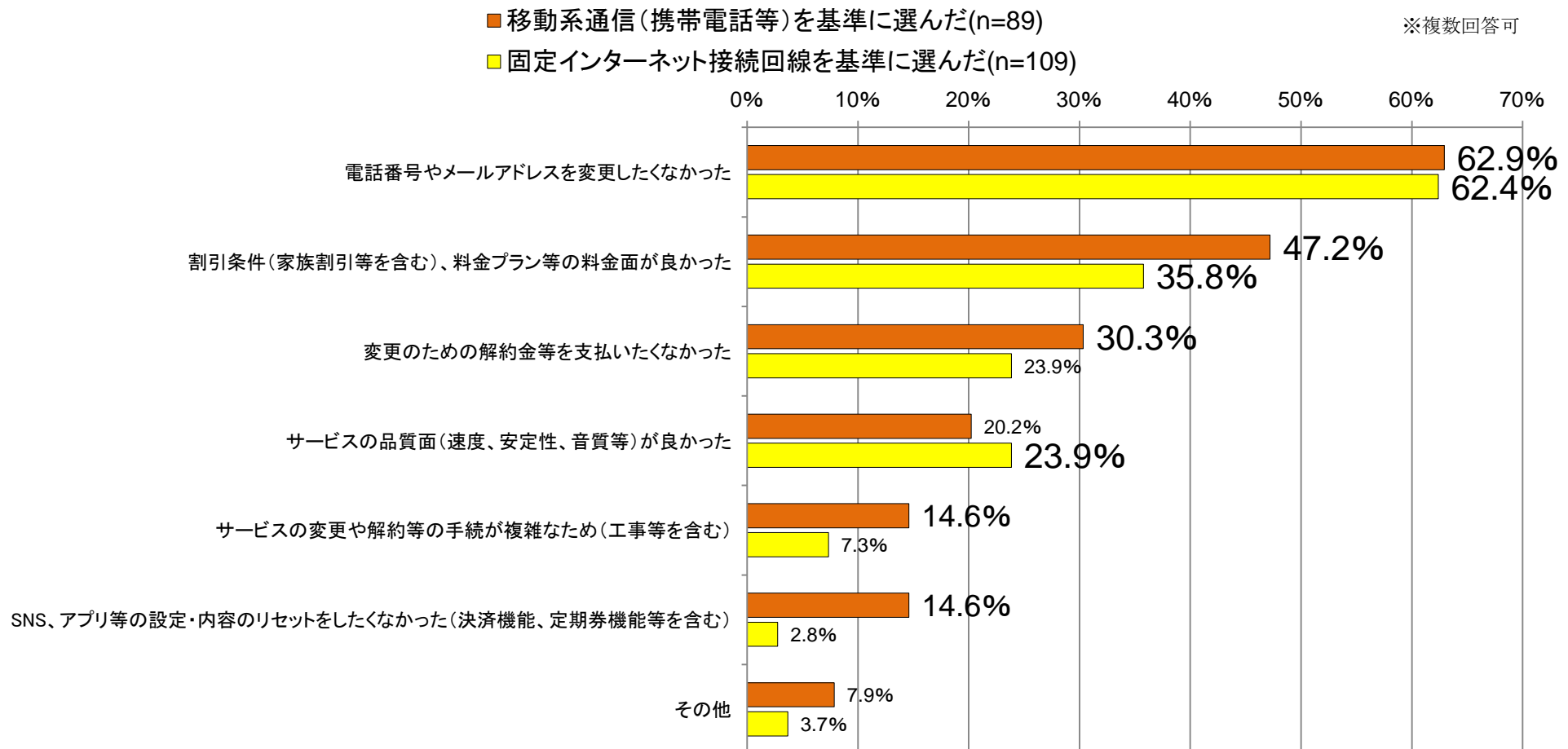


- 卸利用FTTHサービスの選定基準として、サービスの利用者・予約者及びSoftBank光選択者は固定インターネット接続回線を基準としている者が最も多かった一方、ドコモ光選択者は移動系通信を基準としている者が最も多かった。

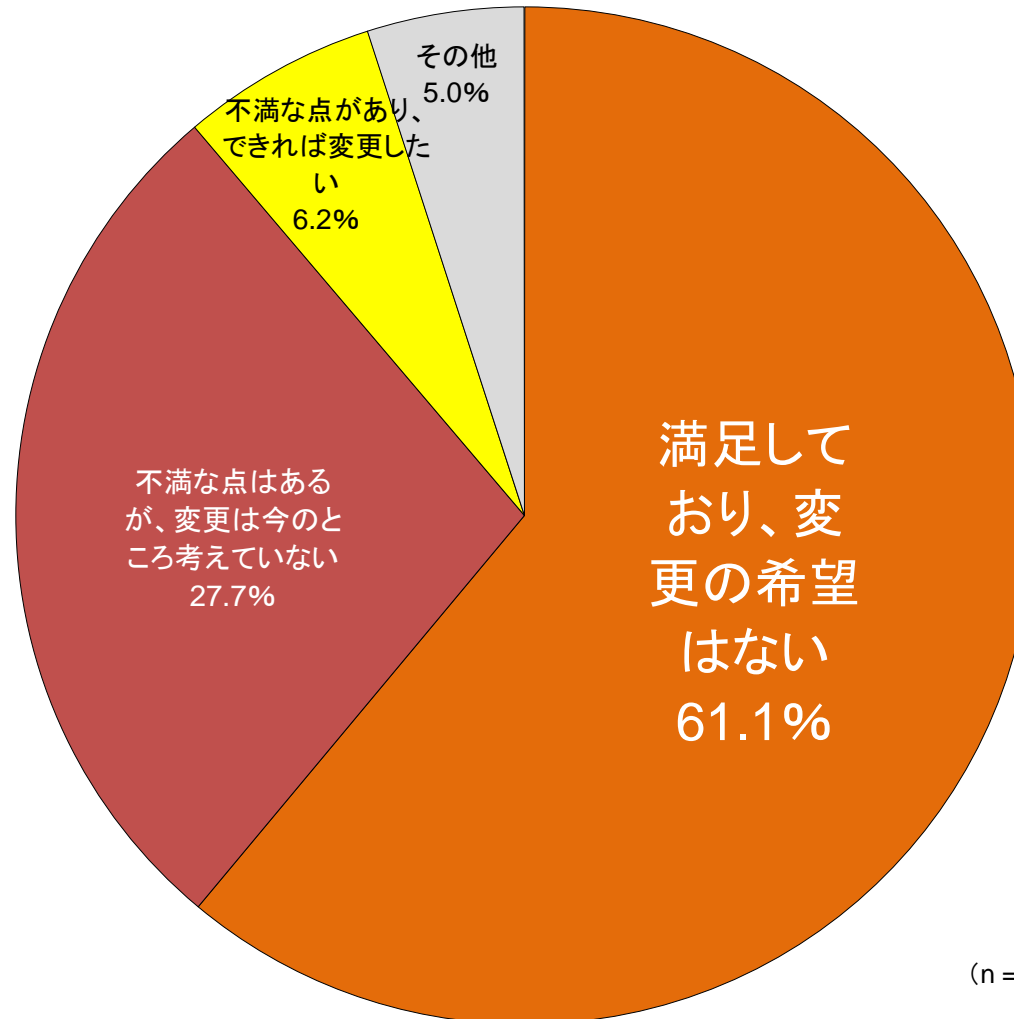
- その他
- 固定電話を基準に選んだ
- ISPを基準に選んだ
- サービスを基準には選んでおらず、割引条件やサービス品質等で決めた
- 移動系通信(携帯電話等)を基準に選んだ
- 固定インターネット接続回線を基準に選んだ



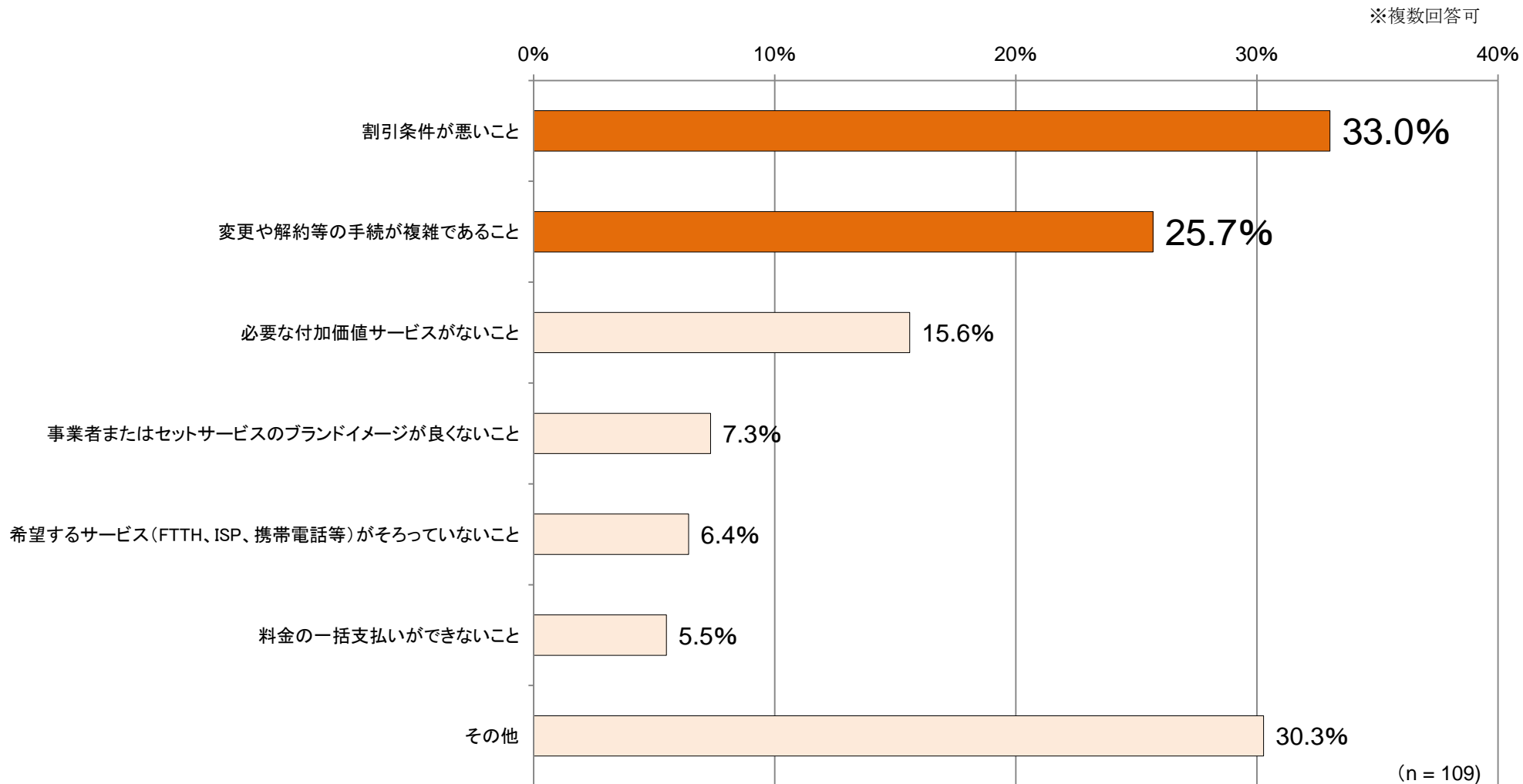
- **卸利用FTTHサービスの選定理由**として、移動系通信を基準に選んだ者と固定系通信を基準に選んだ者ともに、**電話番号・メールアドレスを変更したくないこと、割引条件・料金面の良さを挙げる者が最も多かった。**
- そのほか、**移動系通信を基準に選んだ者は変更のための解約金等を支払いたくないこと、サービス変更や解約等の手続の煩雑さ、SNS・アプリ等の設定・内容のリセットをしたくないことを挙げる者が相対的に多い傾向。**



- 卸利用FTTHサービスの満足度は、満足しており変更希望なしが約61%と最多。

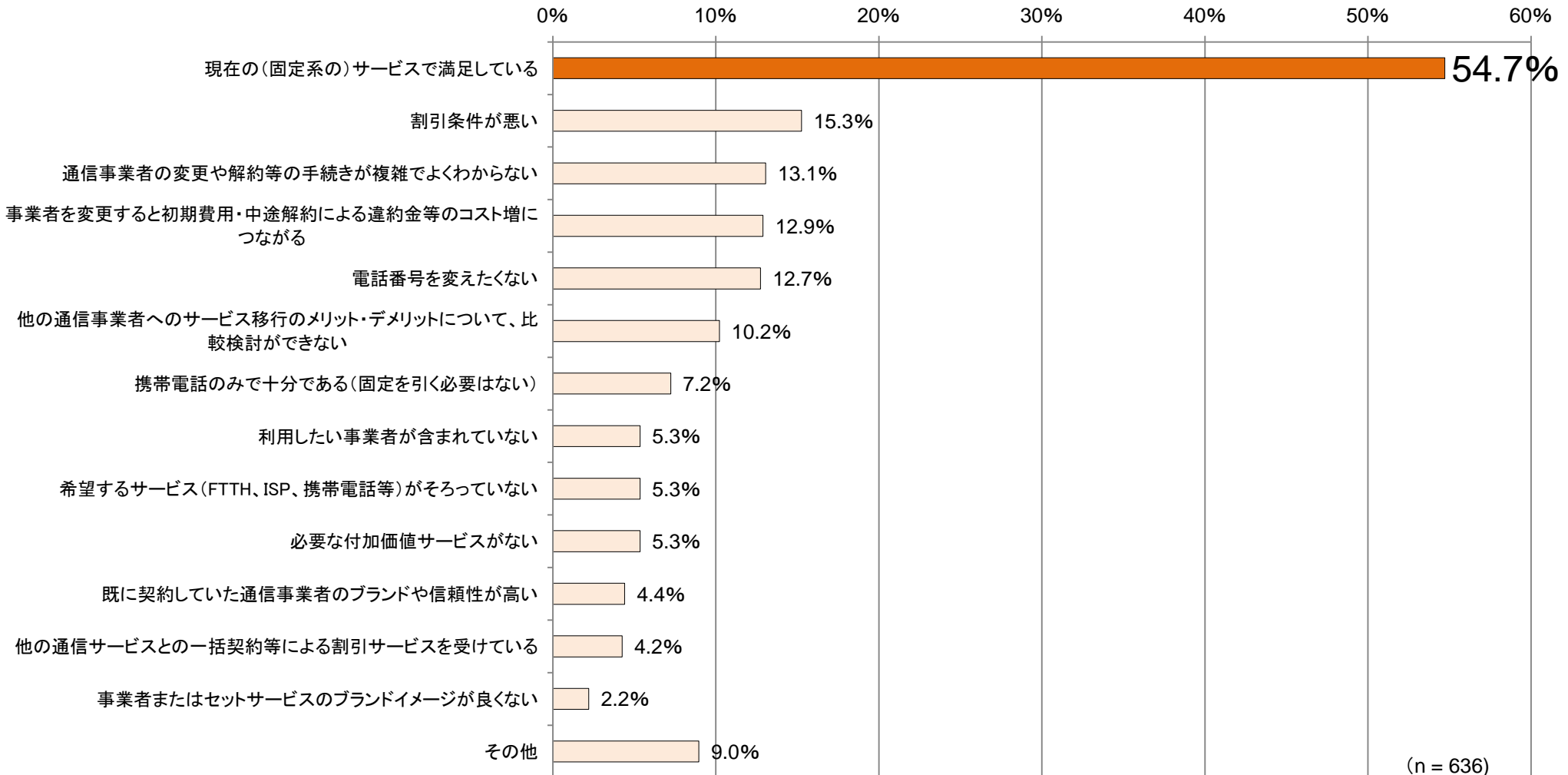


● 卸利用FTTHサービスに不満があると答えた者のうち、**不満点として割引条件が悪いことを挙げる者が約33%と最多**。次点として、**変更や解約等の手続が煩雑**であることが**約26%**。



● 卸利用FTTHサービスを利用しない理由として、現在の固定系のサービスで満足していることを挙げる者が約55%と最多。

※複数回答可



1 NTT東西による光回線の卸売サービス関係

③ 事業者アンケート結果

- 卸利用FTTHサービスに関する分析に活用するため、競争評価の実施に当たり、通常のアンケートに追加し、事業者に対しサービス卸に関するアンケートを実施。
- NTT東西から卸提供を受けた事業者のうち、**30者の電気通信事業者からの回答をまとめた。**

アンケート調査の概要

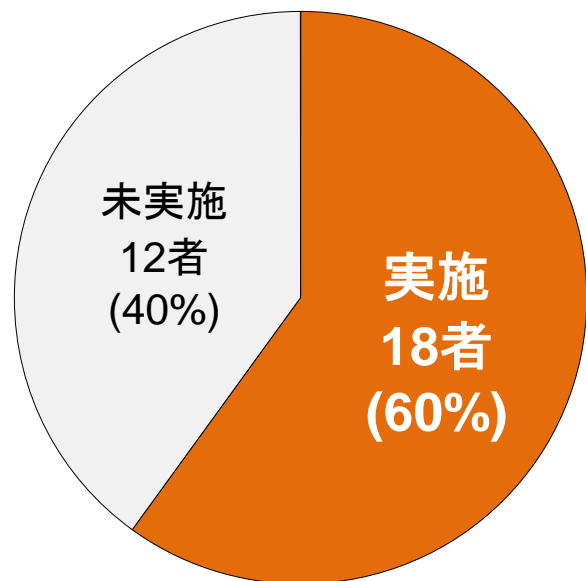
調査方法	電子メールによる任意のアンケートとして実施
主な設問項目	<ul style="list-style-type: none"> ・FTTH回線の提供元 ・卸利用FTTHサービスの料金プランの概要 ・都道府県別・戸建／集合住宅別の契約数 ・オプション、セット割引、その他キャンペーンの概要 等
スケジュール	2015年 3月23日 アンケートの送付 2015年 4月24日 締切り（2015年3月末データ）

アンケート回答の対象事業者の概要

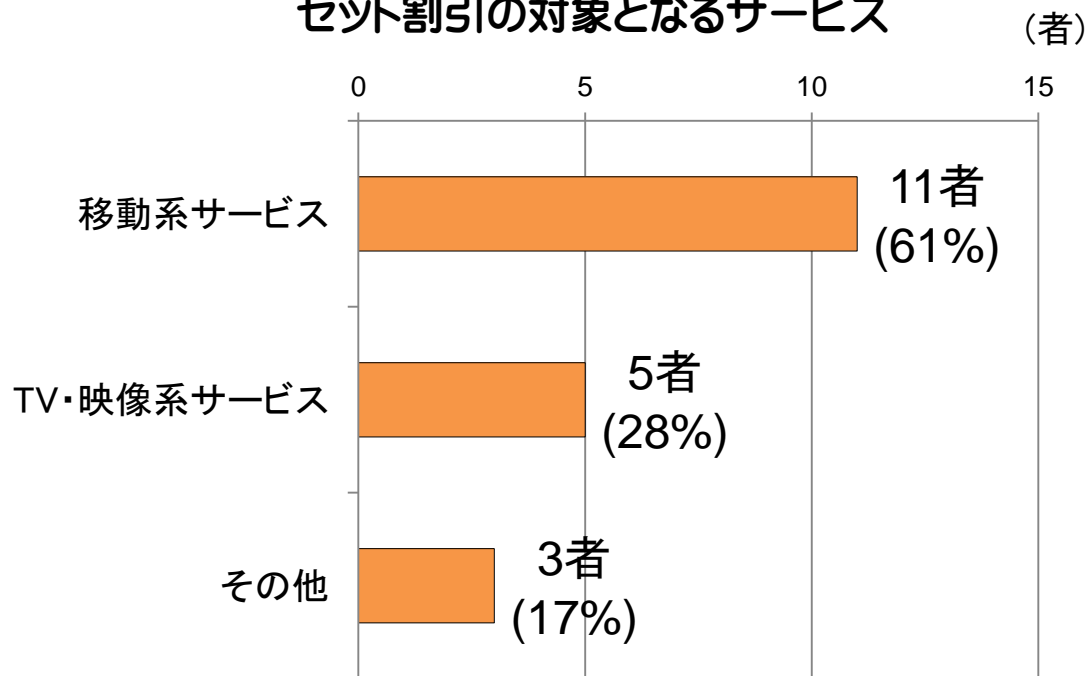
回答者数	30者 （サービス卸を利用し、個人向けFTTHアクセスサービスを提供している電気通信事業者 かつ 2015年3月初めまでに提供開始した者）
業種ごとの内訳 （主たる業種）	通信キャリア:2者 CATV事業者:5者 ISP・MVNO事業者:15者 家電小売業:2者 その他情報通信関連業:4者 その他(異業種):2者 計30者
回答者の 回線提供エリア	NTT東西両方のエリア: 22者 NTT東エリアのみ: 6者 NTT西エリアのみ: 2者 ※2015年3月末時点
備考	本調査は、2015年3月初めに卸利用FTTHサービスの提供を開始した事業者のうち、 <u>事前に本調査へのご協力を依頼しご承いただいた事業者(30者)の回答をまとめたもの。</u> 2015年3月初め時点でサービス提供を開始していた事業者という条件のみの場合、事業者数はこれよりも多い。

- 組み合わせて契約することでサービスの料金等を値引く**セット割引は、回答者中、6割の事業者が実施。**
- 実施事業者のうち、特定MNOの携帯電話、自社が提供するMVNO等、**移動系サービスとの組合せを実施している事業者が11者(61%)、映像配信サービスとの組合せを実施している事業者は5者(28%)。**

セット割引を実施している事業者の割合



セット割引の対象となるサービス



注：複数のサービスをセット割の対象としている事業者については、重複して集計している。

セット割引の例

【スマート値引き（ソフトバンク）】

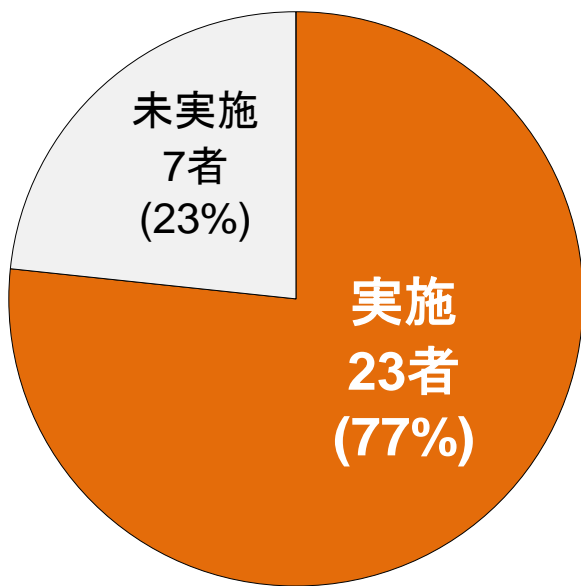
「ソフトバンク光」の契約者がソフトバンクモバイルのスマートフォン等を合わせて利用することで、モバイルの各データ通信プランの料金から、条件により 最大2,000円／月 割引。

【ひかりTVセット割（NTTぷらら）】

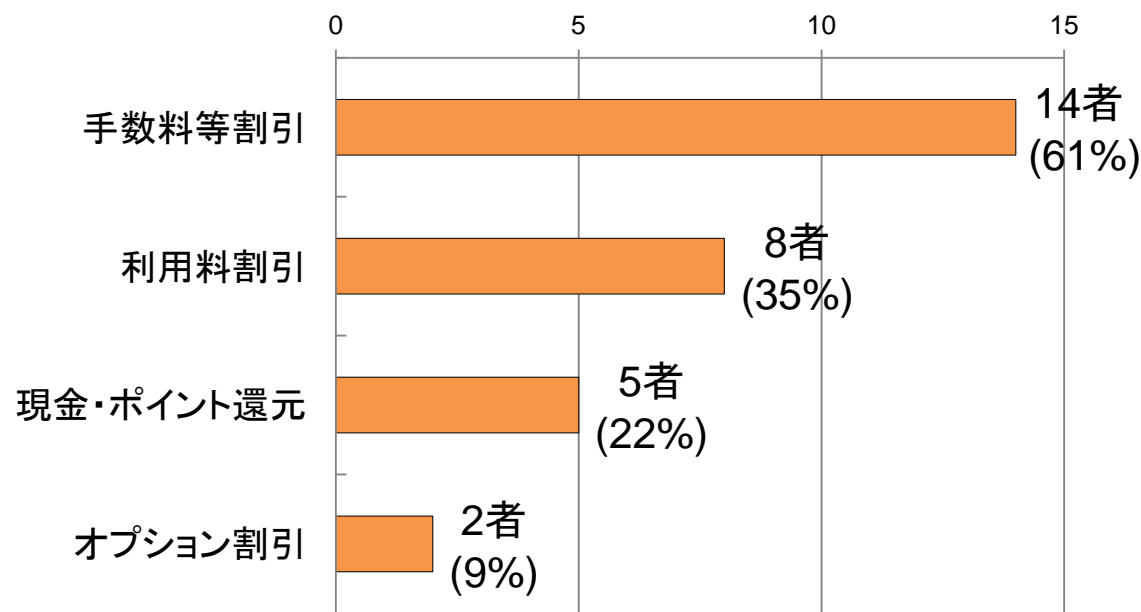
「ぷらら光」と「ひかりTV」を合わせて利用することで、ひかりTVの料金から 600円／月 割引。

- キャンペーンについては、回答者中、7割以上の事業者が実施。
- キャンペーンを実施している事業者のうち、手数料・工事費等の割引が14者(61%)、卸利用FTTHサービスの料金の割引が8者(35%)、現金・ポイントの還元が5者(22%)となっている。
- 現在実施されているキャンペーンの適用条件は、サービス開始から概ね半年以内に契約といった、初期のユーザに適用されるものがほとんど。

キャンペーン実施事業者の割合



キャンペーンの特典の分類



注：複数の特典があるキャンペーンを実施している事業者については、重複して集計している。

各特典の概要

● **手数料等割引**

契約事務手数料(1,000~3,000円程度)、回線の工事費(10,000~20,000円程度)等を割引。

● **利用料割引**

卸利用FTTHサービスの月額利用料金を割引。

● **現金・ポイント還元**

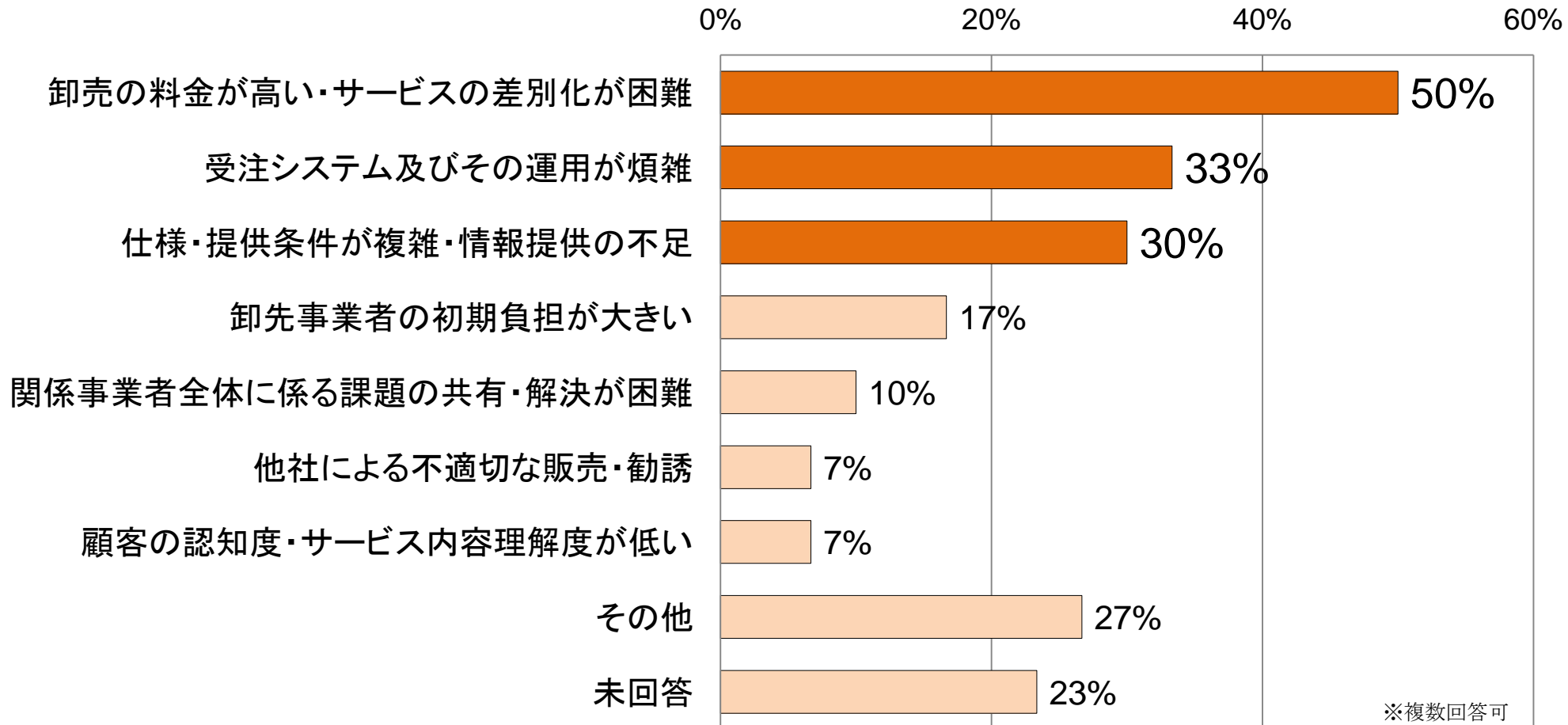
各事業者の条件にもよるが、割引額はおおむね月額500円以内。適用期間は3ヶ月~24ヶ月まで様々。

● **オプション割引**

料金の割引等とは別に、現金等を利用者に還元。おおむね3,000~10,000円分程度。

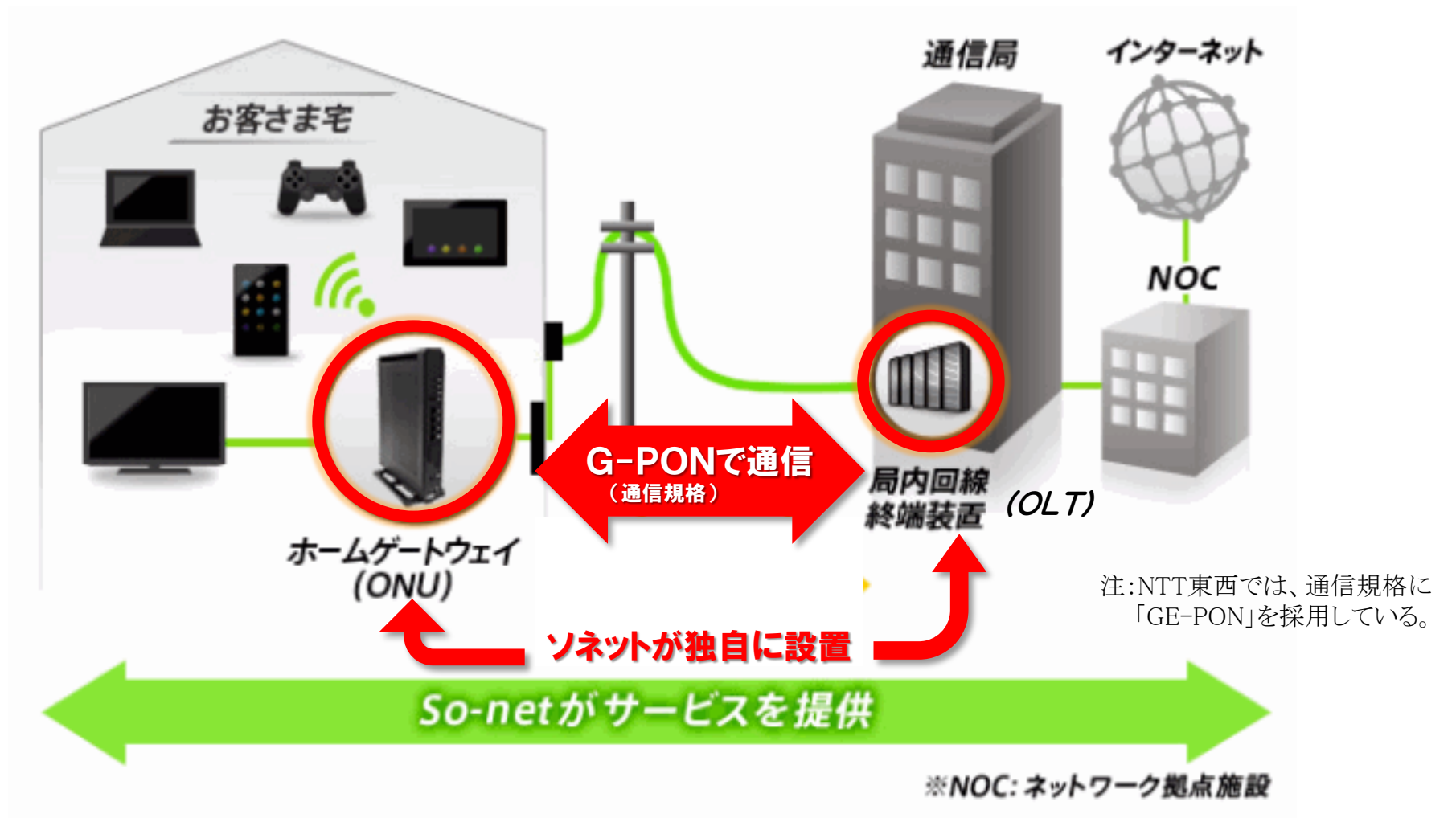
ルータのレンタルやウェブ上のサービス等、その他オプションの料金を割引。

- サービス卸に係る課題等の意見では、「卸売料金が低い」が約50%と最も多い。料金面で既存サービスと差が付けられず収益性も低いことから、競争できないという意見が多い。
- 次に多いのは、「受注システムが煩雑」が約33%、「情報提供の不足」が約30%となっており、卸元事業者と卸先事業者との間における、契約・工事等の調整に係る課題が挙げられている。



2 ISPによる接続を利用したFTTHサービス関係

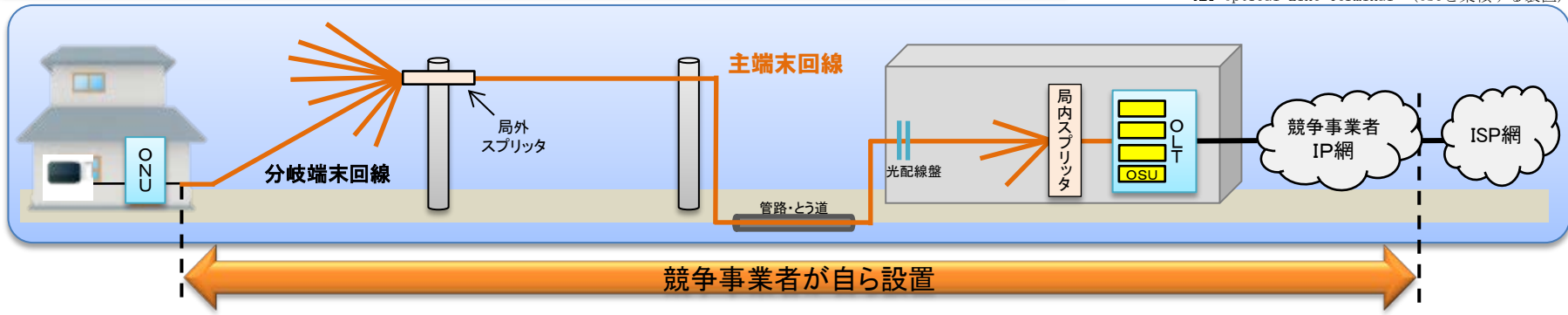
- 2013年4月15日、ISPのソネットは、NTT東日本のダークファイバを接続により利用した下り最大2GbpsのFTTHサービス『NURO 光』の提供を開始。
- ソネットが自らOLT・ONUを設置し、NTT東日本とは異なる通信規格を採用することでサービスを差別化。



ONU:Optical Network Unit（光回線終端装置）
 OSU:Optical Subscriber Unit（光回線伝送装置：ONUと対向して光信号を伝送する装置）
 OLT:Optical Line Terminal（OSUを集積する装置）

（参考）NTT東西
 約1,200万契約

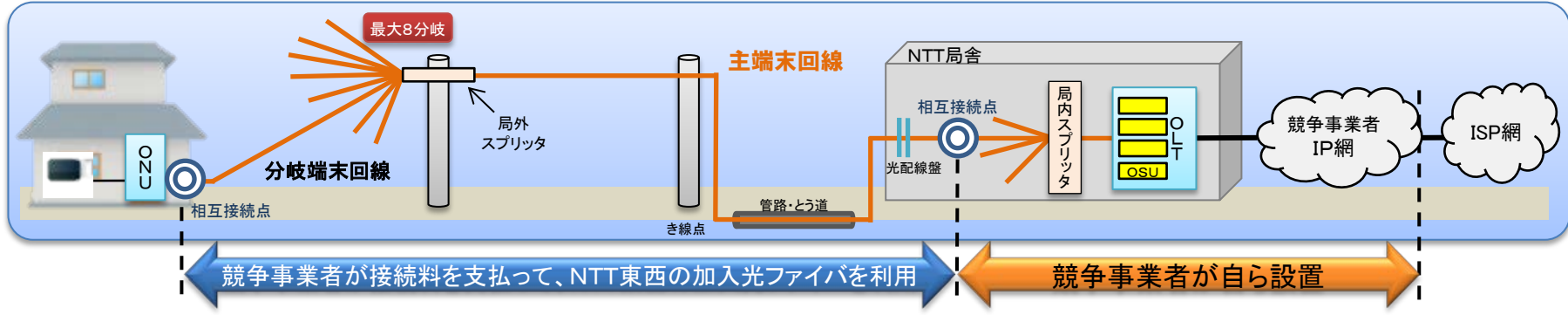
「自己設置」の例（競争事業者が自ら設備を設置して、利用者にFTTHサービスを提供）



電力系事業者
 ・ケイオプティコム
 ・STNet
 ・QTN等

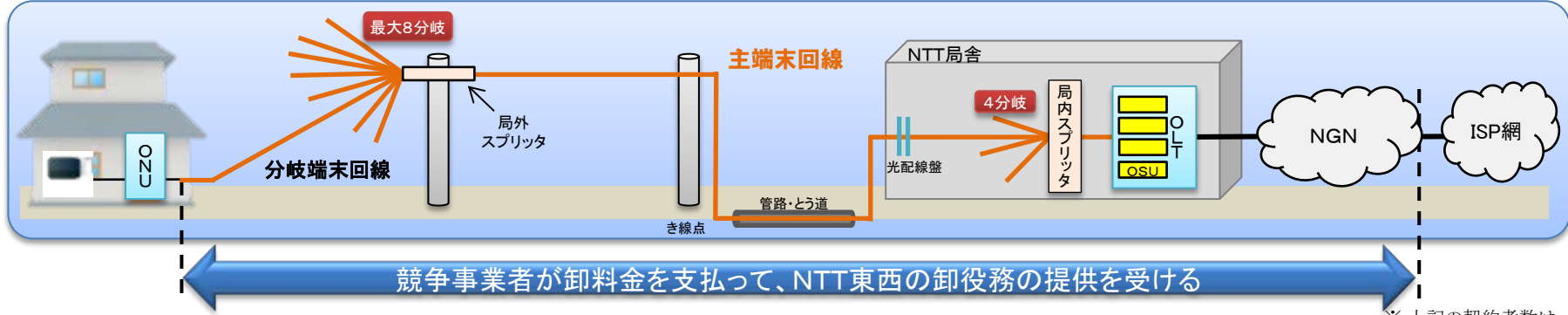
KDDI（東京23区等）
 等
 約350万契約
 （H26.3末）

「接続」の例（競争事業者が接続料を支払って、NTT東西のネットワークを利用し、利用者にFTTHサービスを提供）



KDDI（上記以外）
ソネット
 等
 約100万契約
 （H26.3末）

「卸電気通信役務」の例（競争事業者がNTT東西から卸役務の提供を受け、利用者にFTTHサービスを提供）

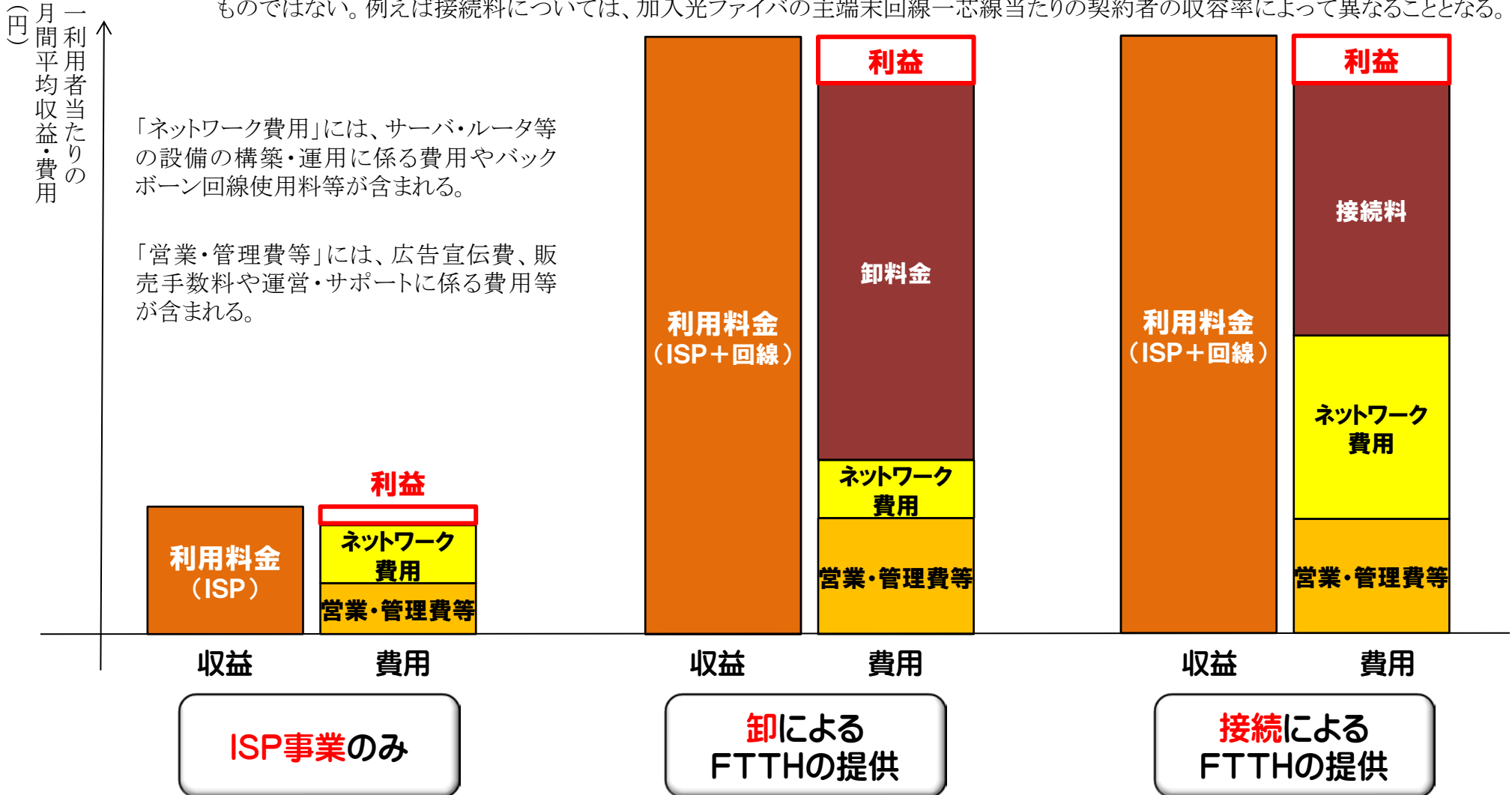


平成27年2月～順次
NTTドコモ
ソフトバンク
ISP、MVNO
他産業
 等

※ 上記の契約者数は、50万単位の概数としている。

- ISPが卸又は接続によりFTTHサービスを提供する場合、ISP事業のみの場合と比べて**収益・費用共に増加すること**となる。
- 一般に、**営業・管理費等**はISP事業のみの場合と比べて**卸又は接続によるFTTHサービスの提供の場合の方が高額**となる。
- **接続**による提供は、**卸**による提供と比べた場合、**ネットワーク費用が高額**となる。

(注) 戸建て向けFTTHサービスを想定。また、グラフはあくまでも比較のためのイメージであり、実際のサービスに係る収支額を示したものではない。例えば接続料については、加入光ファイバの主端末回線一芯線当たりの契約者の収容率によって異なることとなる。



現行の接続料の算定方法に関する課題

[情報通信審議会電気通信事業政策部会接続政策委員会「加入光ファイバに係る接続制度の在り方について」報告書骨子(案)
(平成27年6月3日)より抜粋]

電気通信事業者がNTT東西が設置したシェアドアクセス方式の加入光ファイバを「接続」で利用する際に適用される**主端末回線に係る接続料の算定方法**は、接続料原価を主端末回線の利用芯線数の合計で除して得た額を接続料として設定するものであり、設定される接続料は、**主端末回線1芯線ごとに料金が発生するため、接続事業者にとっては1芯線の主端末回線に収容する契約者が1人であっても、8人であっても、契約数に関わらず、同額の負担をすることが必要な料金体系**となっている。

このような接続料体系の下では、**接続事業者は、コストを抑制し、競争力を向上させる観点から、主端末回線を共用することのできる契約数を増加させ、「利用者当たりの接続料相当額」を引き下げることが事業戦略上決定的に重要**となる。

しかし、現行のシェアドアクセス方式の接続については、

- ・ 他事業者と光信号伝送装置(OSU)を共用しない限り、**自ら獲得した契約者と他事業者が獲得した契約者との間で主端末回線を共用することができないこと**
- ・ 主端末回線1芯線を共用することのできる地理的範囲(**光配線区画**)をNTT東西が定めており、**異なる区画に属する契約者間で主端末回線を共用することができないこと**
- ・ 1光配線区画に存在する世帯の数は、40－50程度(集合住宅を含む)であり、**主端末回線1芯線を共用することのできる潜在的な利用者数が制約されていること**

から、契約者を獲得したとしても、**主端末回線1芯線に収容する契約者数の平均値(収容率)が思うように上がらず、収容率が低水準にとどまれば、「利用者当たりの接続料」を引き下げることができないため、費用構造上、高い収容率を実現しているNTT東西との競争は困難との指摘**が他事業者からなされてきた。

現在、情報通信審議会(電気通信事業政策部会接続政策委員会)において、次のような論点について検討中

- 光配線区画に係る課題への対処の在り方
- 加入光ファイバに係る接続料の算定方式の在り方 等

(参考) 現行の接続料の算定方法について

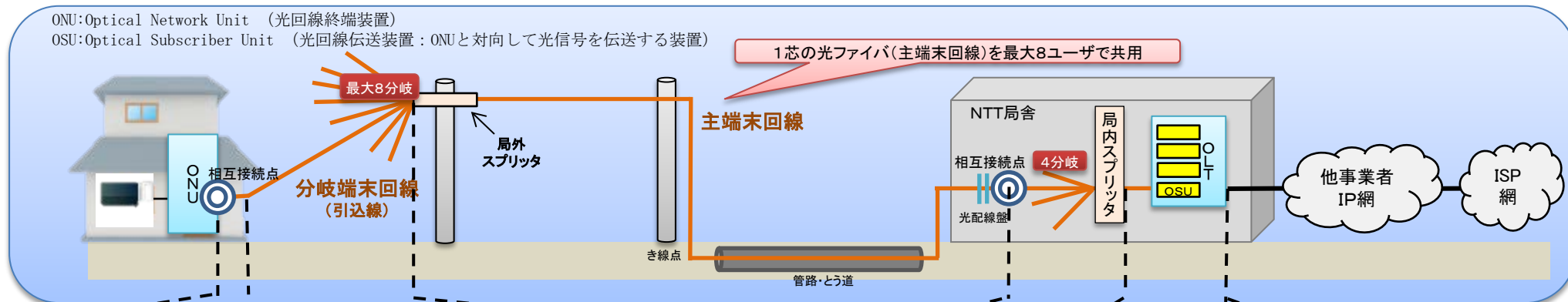
- NTT東西のシェアドアアクセス方式(※)の加入光ファイバを他事業者が利用する場合、**当該事業者が一芯線の主端末回線を専有するため、主端末回線については主端末回線の芯線数を単位として接続料が設定**されている(「芯線単位接続料」)。

※ 設備効率を高めるため、ネットワークの途中にスプリッタを挿入して一芯の加入光ファイバを最大8ユーザで共用する方式。

- 他事業者は、一芯に収容する利用者が1人であっても、8人であっても、同額の接続料の支払いが必要。

$$\text{接続料} = \frac{\text{接続料原価}}{\text{利用芯線数}} = \frac{\text{約1,150億円}}{\text{約360万芯線}} \Rightarrow 2,808\text{円/月}$$

※左の計算式に乖離額調整等を加えた平成26年度適用接続料



光屋内配線加算額	光信号分岐端末回線	回線管理運営費	光信号主端末回線	局内SP	GE-OLT
185円/分岐端末回線	271円/分岐端末回線	61円/分岐端末回線	2,808円/主端末回線	167円/1局内SP	1,698円/10SU(1Gbps)

NTT東日本: H26年度適用接続料(月額)

収容する利用者が1人であっても、8人であっても、同額の支払いが必要

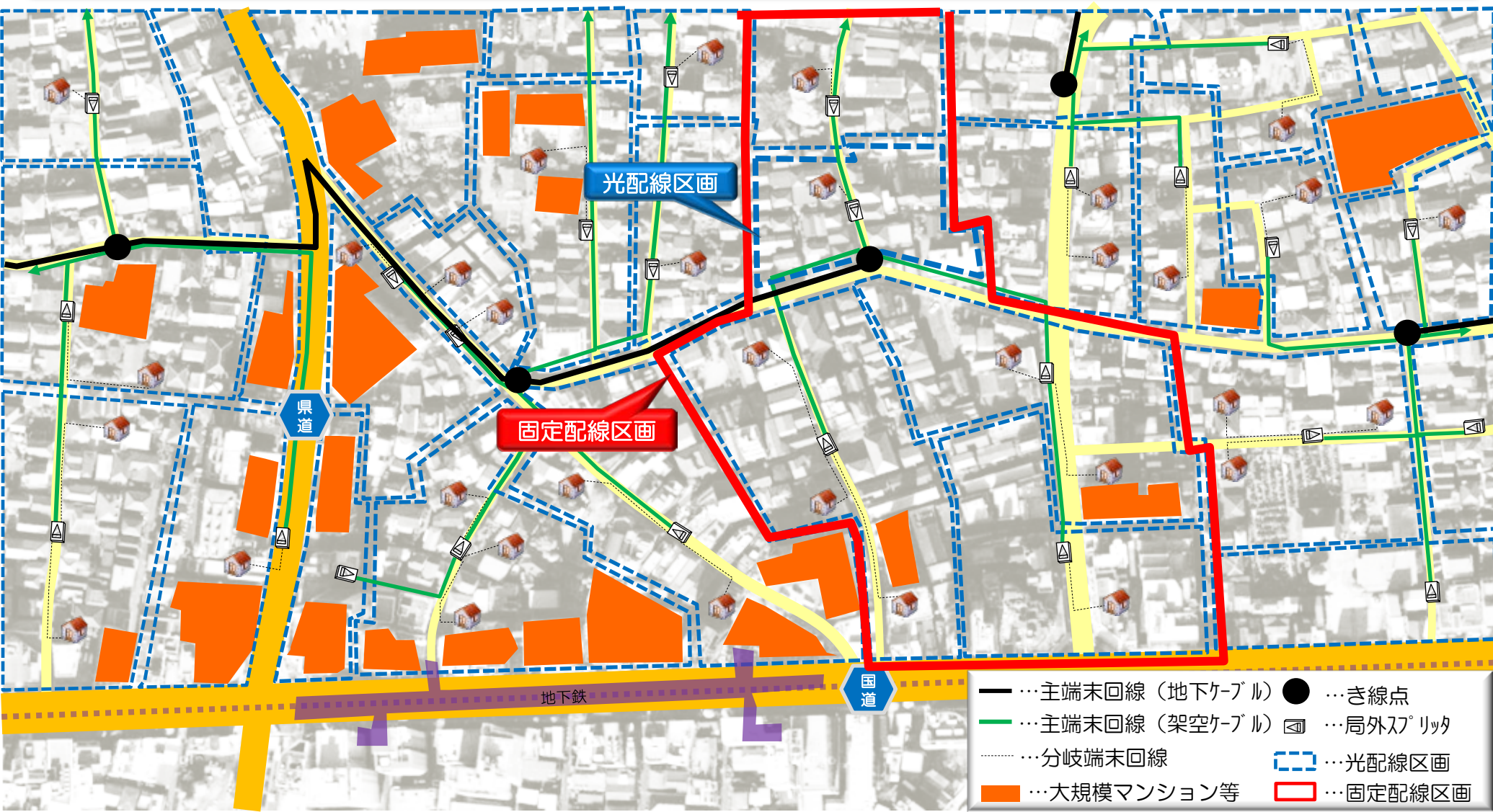
他事業者が接続料を支払って、NTT東西の加入光ファイバを利用

他事業者が自ら設置

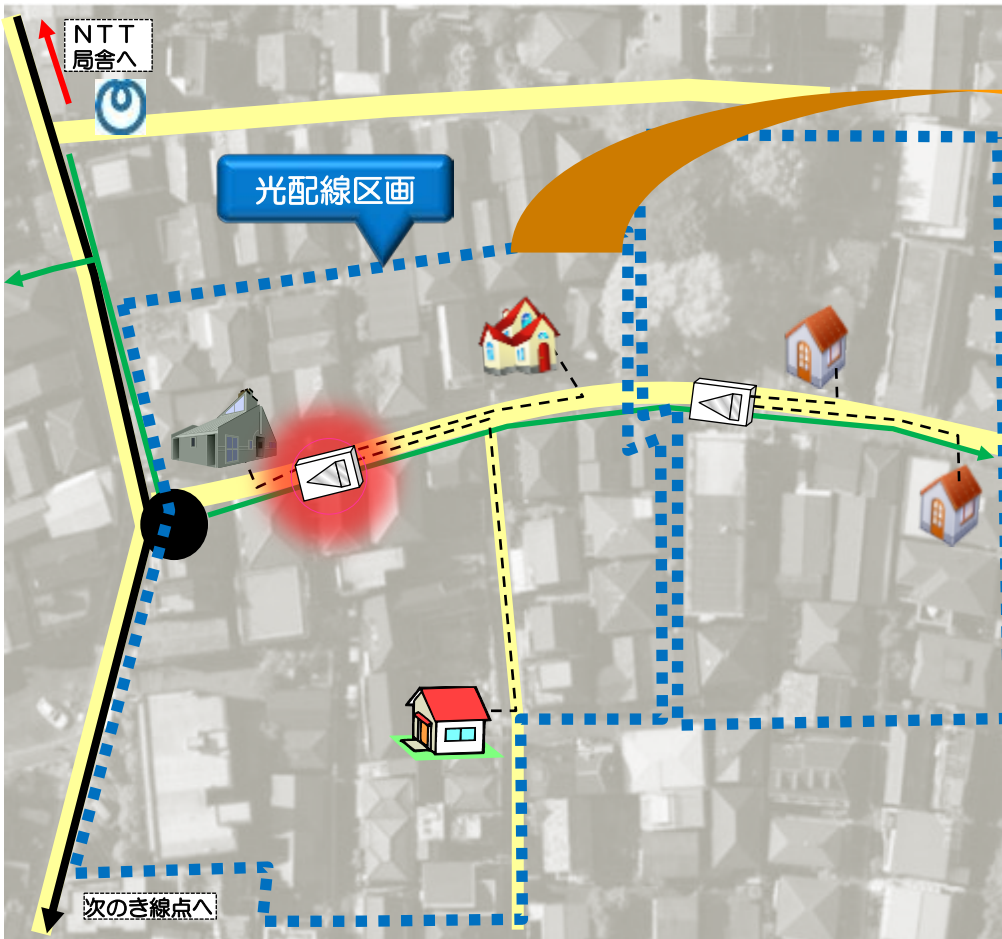
- 「**光配線区画**」とは、NTT東西が設置する加入光ファイバをシェアードアクセス方式によって利用することのできる地域のうち、**1の局外スプリッタがカバーする区域**(カバーする平均戸数は、東が約50、西が約40)。

<主端末回線部分> NTT局舎を出発点とした地下ケーブル(—)を介し、特定のき線点(●)において地上へと上げられ、架空ケーブル(—)を介し、局外スプリッタ(□)へ到達する。

<分岐端末回線部分> 局外スプリッタで最大8つに分岐し、分岐端末回線により各戸へ配線される。



鳥瞰図



立体図

